



不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

Be a peacebuilder!

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC)

<広島本部事務所>

〒730-0053 広島県広島市中区東千田町1-1-61 ナレッジスクエア1階

<東京事務所>

〒180-8520 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-5-1 吉祥寺PARCO8階

TEL 082-909-2631

FAX 082-553-0910

URL <https://peacebuilderscenter.jp>

コピーライト(C) 外務省  
デザイン・編集 一般社団法人広島平和構築人材育成センター (HPC)  
発行 令和5年3月



外務省委託

平和構築・開発における  
グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

令和4年度事業活動レポート

2022

広島平和構築人材育成センター  
Hiroshima Peacebuilders Center (HPC)



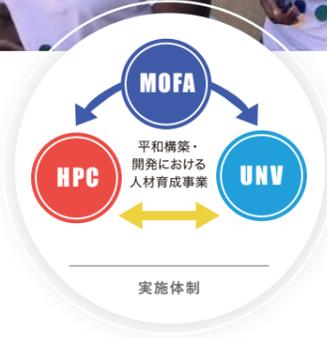
# 平和構築・開発の担い手を育てます

## 平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは

本事業は、平和構築および開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省の人材育成事業です。

令和4(2022)年度は、平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「プライマリー・コース」、平和構築・開発分野で10年程度の経験を持ち、同分野で今後更なる活躍を目指す方のための「ミッドキャリア・コース」、プライマリー・コース修了生を中心に、国際機関やNGO等での就職を希望する方に、平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識を提供する「キャリア構築支援」を実施しました。

本事業は、外務省委託事業として、前身である「平和構築人材育成事業」から今日の「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に至るまで広島平和構築人材育成センター(HPC)が運営にあたり、プライマリー・コースの海外派遣は主として国連ボランティア計画(UNV)が実施しています。



## 国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めるために

平和構築の人材育成のための事業であれば、平和構築に関心を持つ者が事業運営にあたるべきではないか。その気持ちだけで、この事業を始めました。16年間にわたり、多くの方々と知り合うことができました。今や多くの研修員・修了生が、世界中の様々な組織で、平和構築に貢献しています。運営者として、本当に誇りに感じています。また、かつてHPCに勤務した元職員たちが、今は国連・政府・NGOを通じて、平和構築関連の現場・組織で働いていることも、嬉しく思います。平和構築を志す多くの方が、HPCを媒介にして飛躍し、活躍し続けています。

この事業の主役は世界中で平和構築や開発に貢献する、研修員・修了生の方々です。ですから、本事業の運営にあたっては、主役のために何ができるか、という考え方に徹的にこだわりたいと考えています。幸いなことに、本事業を多種多様な関係各機関が支援してくれています。さらには、長い事業運営を通じて、すっかり事業のファンになってしまった講師層をはじめとする分厚い専門家層の支援者の方々もいます。人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間をこれからも歓迎します。



**篠田 英朗**  
HPC代表理事/平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター/東京外国語大学教授

ロンドン大学(LSE)Ph.D.(国際関係学)。平和構築などに関する著作・論文多数執筆。代表作:『平和構築と法の支配』(大佛次郎論壇賞)、『国家主権という思想』(サントリー学芸賞)、『集団的自衛権の思想史』(読売・吉野作造賞)など。

## 本事業で提供する研修コースの特徴

### キャリア構築に有益な知識の獲得や実務的な技能の習得をする機会を提供

キャリア構築に有益な知識とは、たとえば平和構築にかかわる様々な議論、現場で活動している主な組織、政策に関する知識のことです。これらを効率的に提供するだけでなく、様々な対応能力が求められる援助調整やプロジェクト運営を意識したシミュレーション形式の演習も取り入れています。チームワークを通じた課題解決という点で実際の業務に近い経験をできるように考慮しています。さらに、国連等の国際機関でのキャリア構築では個人々の多面的なコンピテンシー(業務遂行能力)が問われます。国内研修では、研修それぞれ自体が一つの目標に向かって多国籍のチームがダイナミックな作業をする現場であると位置づけ、コンピテンシー向上のための具体的な経験を積む機会を作り出しています。

### キャリア構築への意識を鋭くする環境を提供

自らがどうして平和構築にかかわるのか、どのようにかわるのか、これらのことを考えることは長期的にキャリアを構築する上で重要です。国内研修の機会を通じて平和構築分野に携わる動機や使命感を深めることができるように配慮しています。また、平和構築分野の経験がない方でも国際機関におけるキャリア構築についてイメージを具体化できるよう気付きの機会を提供します。

### 専門家、実務家、修了生や同期研修員との国際的なネットワーク構築の場を提供

平和構築の現場には様々な学歴、経歴、バックグラウンドを持った人が関わるため、決まったキャリア構築の路線があるわけではありません。様々な人の実例に数多くふれて経験的な知識を広げながら、創造的に自分のキャリアを切り開いていかなければなりません。研修の運営にあたっては、知識や経験が豊富な講師陣などの専門家層や修了生との交流を促進し、さらに悩みを語り合え、志を共有する仲間の輪を広げ、信頼関係で結ばれた人的ネットワークを充実させていけるように最大限の配慮をしています。

2022年度の研修は、外国人研修員も含め研修員は皆、実地で参加をすることができました。研修員、講師、職員など関係者は研修会場を訪れる前に、PCR検査を行い、陰性であることを確かめた上で、研修に参加しました。研修中、関係者は外部の人たちとの接触を可能な限り遮断するバブル方式を行い、また、会場内も換気を重視し、都度空気の入替えを行うことで、マスクなしでも研修に参加できるような体制をとりました。

## CONTENTS

- 平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは — 02
- プライマリー・コース — 03
- プライマリー・コース海外派遣 — 05
- プライマリー・コース修了生のキャリアパス例 — 06
- ミッドキャリア・コース — 07
- キャリア構築支援 — 09
- データで見るキャリア構築 — 11
- 平和構築人材育成事業16年の歩み — 13
- 事業が目指すキャリア構築 — 15
- ピースビルダーズ特集 — 17

## 本事業に至るまで



紛争に苦しむ国々に対し、平和の定着や国づくりのための協力を強化し、日本の国際協力の柱とするための検討を行うため、平成14(2002)年「国際平和協力懇談会」(明石康・座長)で報告書がとりまとめられました。

また、平成18(2006)年8月、国連大学で開催された「平和構築を担う人材とは・アジアにおける平和構築分野の人材育成に関するセミナー」で「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」の立ち上げが表明されました。これを受け、平成19(2007)年に「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」が開始され、平成21(2009)年から「平和構築人材育成事業」として本格事業化しました。その後、平和構築分野の人材育成に関する取組を強化するため、「平和構築分野に関する有識者懇談会」(波多野敬雄学習院院長・座長)が議論を重ね、平成26(2014)年4月に岸田外務大臣(当時)に行った提言を受けて、平成27(2015)年から「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」として本事業が実施されました。平成30年度の外務省による企画競争の結果、広島平和構築人材育成センター(Hiroshima Peacebuilders Center: HPC)は令和4年度までの事業を担当しました。これによりHPCは、平成19年から通算16年間本事業を実施してきました。

これまで実施してきた「プライマリー・コース」に加え、「ミッドキャリア・コース」も実施しています。プライマリー・コースの海外派遣は、国連ボランティア計画(United Nations Volunteers programme: UNV)が実施しました。本事業の修了生は世界各地の国連機関・国際機関の本部および現地事務所、政府機関、NGO等の現場で活躍しています。

## 広島平和構築人材育成センター(HPC)



広島平和構築人材育成センターは、平和構築分野の人材育成、調査・研究などの事業を目的として創設された一般社団法人です。令和4(2022)年度外務省「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の各研修コースやキャリア構築支援の実施団体で、過去15年(2007年から2021年)間の事業運営経験を活かしながら通算16年目である令和4(2022)年度の事業を実施しました。広島島の復興の精神を基盤にして、日本の平和主義を反映させながら、世界平和に貢献する人材のキャリア構築を支援する活動を行っています。平和構築・開発援助・人道援助の専門家コミュニティのハブとなることを目指しています。

## 国連ボランティア計画(UNV)



国連ボランティア計画(UNV)は世界的なボランティアリズムを通して、平和と開発に貢献しています。UNVはパートナーと協働して、適任で、意欲が高く、十分にサポートされている国連ボランティアを開発プログラムに統合し、ボランティアリズムの価値と世界的な認識を促進します。UNVは「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の事業実施パートナーとして、事業の「海外派遣」部門の運営管理を行っています。UNVはおよそ160か国で活動しており、そのうち約60か国以上にフィールドユニットが設置されています。UNVは、国連開発計画(UNDP)によって管理され、国連開発計画理事会に報告しています。

# Primary Course プライマリー・コース

身につくのは、知識、実践、自信、そして人の輪

01

国内研修

2023年1月18日から2月21日までの約5週間にわたって国内研修を実施しました。日本人研修員13名、及びアジア・中東・アフリカ・南米各国の外国人研修員10名が、約5週間にわたり寝食を共にし、ロール・プレイやグループワーク等を通じて互いに切磋琢磨しました。一部の講師にはオンラインにてご参加いただき、世界各地で活躍する最高水準の講師陣による充実した研修を実施することができました。これによって、研修員が平和構築・開発分野の第一線で活躍する実務家と人的ネットワークを形成する機会を提供しました。

02

海外派遣

日本人研修員は国内研修修了後、国連ボランティア(UNV)として平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ、最大12カ月間派遣されます。研修員は、国内研修実施後の2023年3月から順次派遣されることになっています。平和構築・開発分野の専門家になるためには、実務経験が欠かせません。国内研修で習得した理論やスキルなどを現場で実践する貴重な機会となります。なお2022年10月には、研修員と派遣先の円滑なマッチングのために、国連機関駐日事務所の職員の方々と日本人研修員をオンラインでつないで、オリエンテーションを実施しました。また1月18日には、研修員、外務省(及びその他の政府機関など)、国際機関、各国大使館との交流の場として、レセプションを開催いたしました。

03

キャリア構築支援

国内研修開始前から、将来のキャリア・プランづくりを支援しています。国際機関の要職経験者や人事担当者による助言制度などのサポート体制を強化するとともに、他の研修員、国内研修の講師陣、海外派遣先の機関などと研修を通じて幅広い人脈を築くことが可能です。また、採用に関する情報の提供も行っています。

国連機関

国際機関

国際NGO

国内NGO

政府機関

その他



## 今年度研修生からのメッセージ



外国人研修員 | エリオデ・バコーレ

プライマリー・コースへは2回応募しましたが不合格となり、今年度でようやく参加することができました。応募にこだわったのは、この画期的な機会を通じて高度な知識を得られると思ったからです。5週間の研修を通して、平和構築、紛争分析、計画、調整、コンピテンシー(業務遂行能力)の向上、安全、人道支援、コミュニケーションの知識を得ることができ、そして仲間の研修員との多くのグループ演習を通して実践的に学ぶことができました。国連、NGO、市民社会組織など、あらゆる分野で必要とされる十分かつ重要な知識を得ることができ、私の職業的・キャリアのスキルは大きく向上しました。このプログラムによって、私は非常に知的かつ問題解決的な方法で手段と目的を結びつけることによって、プロフェッショナル、かつ戦略的であり続けることができるようになりました。私は、紛争、人道危機、低開発や気候変動の危機に関する多くの課題など、世界で最も差し迫った問題の解決を支援し、貢献するための高いモチベーションを持つようになったと感じています。様々な専門家や経験豊富なファシリテーターの指導の下、私は、母国であるコンゴ民主共和国や世界全体の平和構築や開発努力を支援するため、自身の現場での介入策を見直すのに十分な技術を身につけることができたと感じています。私はHPCを誇りに思っていますし、世界中で国連アジェンダの達成に向け、貢献する準備ができています。



日本人研修員 | 服部 紗代

プライマリー・コースは、国際支援に関わりた人、既に関わっている人、どちらにもおすすめです。私は以前から国際NGOで人道支援に従事していますが、平和構築・開発援助の知識を深めて国際支援を包括的に理解したいという想いで参加しました。コースは、アナリシス、プランニング、コーディネーション、マネジメントの4つのスキル別に週が構成されており、週替わりで紛争分析、平和構築、人道支援、開発援助の最前線で活躍する講師陣に学ぶので、最新の動向に基づく新しい知見やネットワークを得ることに加え、自分の関心、強み、弱みを見つめる貴重な機会となりました。講師やキャリアアドバイザーの皆さんは仕事と個人の人生経験を惜しみなく共有してくださり、グループワークでは海外研修員と共に実際の支援現場の業務を演習するため、5週間で数年分と言っても過言でないほど、多くの気づきを得ることができます。中でも、国際支援のプロとして「自分を知ること」の大切さが繰り返し伝えられましたが、本研修は自分がどのようなスキルを持ち、どのような価値を体現したいかを改めて自分に問う機会となり、長いキャリアを着実に歩むための指針と自信を得ることができました。

## 国内研修の様子



開講式において佐藤大輔外務省総合外交政策局国際平和・安全保障協力室長と、集合写真を撮影しました。今年度は3年ぶりに全研修員が実地で研修に参加することができ、活気溢れる研修となりました。



世界各国で活躍する講師陣が広島に集まり、各人のご経験に基づいた豊富な知識を惜しみなく教示いただきました。



実際のケースに基づいたカリキュラムのもとに、講師の助言を得ながら、グループでの議論を重ねました。



江田島・海上自衛隊第一術科学校でのエクスカージョンにて。エクスカージョンは、広島平和記念公園、宮島、呉・江田島と、3回実施しました。

## 令和4(2022)年度プライマリー・コース:国内研修カリキュラム・講師紹介

### Initial Week

開講式・外務省大臣政務官敬愛実施・自己紹介プレゼンテーション・チームビルディング・平和構築の紹介・コンピテンシー(業務遂行能力)の紹介・陸上自衛隊駒門駐屯地訪問

>> 実地講師

篠田 英朗

HPC代表理事/東京外国語大学教授

玉内 みちる

HPCシニア・アドバイザー(キャリア構築支援)/株式会社ロータス・インサイト・グローバル・シンガポール代表取締役

上杉 勇司

HPCコースメンター/早稲田大学教授

ウマル・バ

元国連マリ多面的統合安定化ミッションガオ地域事務所長

西村 修

陸上自衛隊国際活動教育隊長

### Workshop1:アナリシス

紛争分析の理論と様々な方法  
政治的・法的分野の政策的課題

>> 実地講師

篠原 広人

国際刑事裁判所(ICC)書記局・対外活動局  
国際分析ユニット長

ジョマート・オルモンベコフ

国連政治・平和構築局(DPPA)政治担当官

リサ・リーフキ

国際アフガニスタン支援ミッション  
(UNAMA)政務部上級政務担当官

篠田 英朗/玉内 みちる

上杉 勇司/ウマル・バ

>> オンライン講師

デズモンド・モロイ

HPCコース・メンター/パナサストラ平和  
研究所所長

小野 京子

国連人道問題調整事務所(OCHA)ミャン  
マー事務所副所長

シモネッタ・ロッシ

国連シエラレオネ常駐調整官事務所  
(UNRCO)平和・開発アドバイザー

### Workshop2:プランニング

活動計画の立案の手法  
安全保障分野(DDR・SSR・PKOミッション等)の政策的課題/人事

>> 実地講師

マリア・ロペス・エチェバリア

国連南スーダン共和国ミッション  
(UNMISS)復興と帰還、社会復帰担当官

篠田 英朗/玉内 みちる/ウマル・バ

ジェーン・コニー

国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)  
保護・移送・再統合セクション、チームリーダー

>> オンライン講師

長谷川 祐弘

日本国際平和構築協会理事長/元国連事務  
総長特別代表(東ティモール担当)

エマ・ヒリコラン

コフィ・アナン国際平和維持訓練センター  
学務・研究学部副学長

大庭 真理枝

国連アビエ暫定治安部隊(UNISFA)ジェ  
ンダー担当官・官房長事務所主任

マイケル・エメリー

国際移住機関(IOM)人事部長

デズモンド・モロイ

### キャリア・デザイン

キャリアコンサルタントとして人材育成・活用に関するコンサルティング及び研修に従事

>> 実地講師

佐藤 知央 オフィスクラッチ代表

### Workshop3:コーディネーション

多様な組織間の業務調整・交渉の手法  
人道援助活動の政策的課題/コミュニケーションスキル

>> 実地講師

忍足 謙朗

難民を助ける会(AAR Japan)常任理事/  
元国連世界食糧計画(WFP)アジア地域  
局長

ギヨム・フォリオ

Global Vision創設者兼リードコンサル  
タント/Le Designer Clandestin創業者

末藤 千翔

国境なき医師団プロジェクトコーディネ  
ーター

ジョン・キャンベル

セキュリティ・コンサルタント/元国連難  
民高等弁務官事務所(UNHCR)アジア太  
平洋安全アドバイザー・eセンターコー  
ディネーター

ピーター・コゼレツ

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)  
上級学習・人材開発担当官

舩岡 真理

国連世界食糧計画(WFP)アフガニスタ  
ンサプライチェーン担当官

篠田 英朗/玉内 みちる/上杉 勇司

>> オンライン講師

井上 悦子

国連移住計画(IOM)ウクライナ  
プログラム・オフィサー

石原 朋子

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)  
ウクライナ 法務官

### Workshop4:マネジメント

プロジェクト・マネジメントの手法  
様々なファンドスキームを通じた開発援助活動の政策的課題

>> 実地講師

小松原 茂樹

国連開発計画(UNDP)マラウイ共和国常  
駐代表

中村 俊裕

NPO法人コペルニク(Kopernik)共同創  
設者兼CEO/大阪大学大学院国際公共政  
策研究科招聘講師

ママドゥ・ンダウ

国連開発計画(UNDP)政策アドバイザー・  
品質計画チームリーダー

熊丸 耕志

国連開発計画(UNDP)マーシャル諸島  
水セキュリティプロジェクトマネージャー

篠田 英朗/玉内 みちる/末藤 千翔

ジョン・キャンベル/忍足 謙朗

>> オンライン講師

ムサ・イブラヒム

政策スペシャリスト、国家平和と開発スベ  
ジタリスト・アドバイザー

桑田 弘史

国連開発計画(UNDP)国別支援管理チーム  
プロジェクト調整専門官

デズモンド・モロイ

大塚 玲奈

国連開発計画(UNDP)  
デジタルイノベーション専門官

藤村 梨紗

国連開発計画(UNDP)・国連政治・平和構  
築局(DPPA)共同プログラムM&E・プロ  
グラム専門官

### 安全管理術

>> 実地講師

ルイス・ロビンソン

InSiTuトレーニングディレクター/上級人道支援アドバイザー・安全トレーニング専門家

篠田 英朗/忍足謙朗/末藤 千翔/ジョン・キャンベル



平成19年度～令和3年度までの  
15年間の派遣先機関数：25機関  
派遣先総数：61ヵ国・地域

- UNDP (国連開発計画) / 48名
- UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) / 36名
- UNICEF (国連児童基金) / 36名
- IOM (国際移住機関) / 18名
- WFP (国連世界食糧計画) / 17名
- UN Women (国連女性機関) / 9名
- UNRCO (国連常駐調整官事務所) / 7名
- UNOPS (国連プロジェクトサービス機関) / 4名
- FAO (国連食糧農業機関) / 3名
- OCHA (国連人道問題調整事務所) / 3名
- UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) / 3名
- UNODC (国連薬物犯罪事務所) / 3名
- WHO (世界保健機関) / 3名
- UNFPA (国連人口基金) / 3名
- UNESCO (国連教育科学文化機関) / 2名
- UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) / 2名
- IDEA (民主主義・選挙支援研究所) / 1名
- Office of UN Funds and Programmes Cape Verde (国連基金・計画カーボベルデ事務所) / 1名
- UNDRR (国連防災機関) / 1名
- UN-Habitat (国連人間居住計画) / 1名
- UNIOGBIS (国連ギニアビサウ統合平和構築事務所) / 1名
- UNMAS (国連地雷対策サービス部) / 1名
- UNFICYP (国連キプロス平和維持軍) / 1名
- UNAMID (ダルフル国連AU合同ミッション) / 1名
- UNMIS (国連スーダンミッション) / 1名

※PKOミッションへは本事業終了扱いで派遣されています。

### 国連ボランティアとして積む、 平和構築・開発の現場での実務経験

海外派遣では、国連ボランティアとして国際機関での実務に従事します。これによって、国内研修で習得した理論やスキルを現場で実践すると同時に、実務経験を積みながら現場での活動のノウハウを習得します。これまでの事業では、国連開発計画(UNDP)、国連児童基金(UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国連世界食糧計画(WFP)、国際移住機関(IOM)といった国連機関が主な受け入れ先となりました。派遣先の地域もアフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、東南アジア、中央アメリカなどに多岐にわたっています。



<国際移住機関(IOM) / ポーランド>  
ウクライナ危機対応業務をウクライナ周辺国で担う  
国連ボランティア向けの研修に参加した時の様子。集合写真。



<国連常駐調整官事務所(UNRCO) / ジンバブエ>  
Peace and Development Analystとして派遣されたUNRCOにて、レジリエンスに関するワークショップにご参加された時の様子。ワークショップにて登壇し、Crisis Risk Dashboardの説明をしている様子。



<国連児童基金(UNICEF) / バブアニューギニア>  
教育省とともに学校活動をモニタリングした際の集合写真。新型コロナウイルス対応として、水タンクと水道の整備、子どもたちの家庭学習教材の支援や、社会心理的サポートなどを実施。

### プライマリー・コース修了生のキャリアパス例



内海 貴啓 平成25(2013)年度 プライマリー・コース修了生

#### 応募動機

大学時代に実行・運営に携わった国際学生会議を通じて、グローバル課題を様々なバックグラウンドを持つ仲間と議論する場に魅力を感じました。その後大学院在学中、イスラエル・パレスチナに留学し、アラビア語を学びながら現地NGOでインターンをしました。紛争地における人道支援・開発援助の在り方について研究する中で、実際に援助政策の立案や改善に携わりたいと考え、プライマリー・コースに応募しました。

日本の大学院で平和構築学を学んだ後、在エジプト日本大使館で草の根無償業務に従事しました。ちょうどアラブの政変が起こる前後の時期だったため、雇用創出や若者能力強化支援などを通じた社会の安定化を図る事業を立案する機会に恵まれました。その後、違う角度から開発に関わるべく、開発コンサルタントとしてJICAのブルンジ平和構築事業などに携わり、現場で事業実施・監理をしていました。NGO、政府、JICAとそれぞれ違った立場から開発に携わって5年、政策から事業実施まで行うことができる国連機関に興味を持ち始めたところでした。

#### 研修参加前の キャリア

#### 海外派遣でのタイトル・職務内容

国連WFPの中東・中央アジア・東ヨーロッパ地域事務所にプログラム担当官として派遣され、1) 地域内のレポートの調整・取り纏め、モニタリング・ナレッジマネジメントを担当；2) 地域内のレポート担当の能力強化；3) 地域内のプログラムサイクル管理業務を行っていました。任期中、イエメンの緊急事業のレポート業務サポートの機会を頂き、ダイナミックに状況が変化の中で展開される緊急支援を目的に当たりにできたのは、今振り返ってもいい経験だったと思います。

#### 研修修了後のキャリア

UNV終了後、引き続きコンサルタントとして同ポジションで採用され、その後、JPOとして国連WFPスーダン国事務所に食糧安全保障分析担当官として派遣されました。JPO3年目はローマに勤務した後、ウガンダ、アルメニア事務所を経て、現在は、WFPパングラデシュ国事務所にて研究調査・モニタリング評価部門の部長として勤務し、食糧安全保障や事業・政策分析・アドバイザー業務を担当しています。



石原 朋子 平成24(2012)年度 プライマリー・コース修了生

#### 応募動機

学生の頃から難民問題と緊急人道支援に興味があり、難民受け入れセンターでボランティアや、国際機関、NGOでインターンシップを行っていました。学士、修士課程を通して、フランス語、国際政治と法を勉強し、現場の経験を更に積みたいと考えていました。

#### 研修参加前の キャリア

#### 海外派遣でのタイトル・職務内容

UNICEFで平和構築と若者の参加アドバイザー(Peacebuilding and Youth Participation Advisor)として海外派遣されました。若者の能力強化や地方政府の政策立案への若者の参加を促す事業に携わり、事業構築、展開、モニタリング・評価などの事業運営の経験を積みました。

#### 研修修了後のキャリア

研修後は、外務省のJPO制度を通してUNHCRの西アフリカ地域事務所(セネガル)で准法務官として、チャド湖周辺の危機難民、国内避難民の保護政策の立案と機関間の調整に携わりました。JPO後も、UNHCRで法務官としてシリア、ギリシャ、ケニアの任務地で継続して業務に携わり、現在はウクライナのウジホロド事務所、地元政府と連携して事務所の管轄する地域(ザカルパティアとイヴァノ・フランキウスカ県)において1)制度的支援；2)地域コミュニティに根ざした保護；3)居住設備；4)国内避難民の地域統合の課題に取り組んでいます。



角掛 由加里 平成30(2018)年度 プライマリー・コース修了生

#### 応募動機

民間企業でキャリアをスタートしたものの、国際協力分野へシフトしたく大学院進学とその後の計画を立てていた際に本事業のことを知りました。平和構築・開発分野にかかる知見を国内研修で高めたいと、UNVでの海外研修を通じて国際機関のフィールド経験を積むことができる点に大きな魅力を感じ、大学院卒業後に必ず参加したいと考えていました。

#### 研修参加前の キャリア

#### 海外派遣でのタイトル・職務内容

UNICEFインドネシア国事務所に派遣され、イノベーションと青少年育成担当官として勤務しました。職務内容としては、主に1) 青少年の21世紀型スキル育成及び社会参画分野の事業企画・管理、モニタリング、パートナーシップ構築等に携わる傍ら；2) U-Report(ユニセフが開発した青少年の声を集めるためのイノベーションツール)の成長戦略策定、利活用促進、プラットフォームの運用の他、インドネシア政府への政策提言用のデータ分析や資料作成等に従事しました。特に、COVID-19 対応では部門横断的なメンタルヘルスイニシアチブの立ち上げから実施・監理までを担当し、その後のキャリアのバックボーンとなる経験をさせていただきました。

#### 研修修了後のキャリア

UNVとして同じポストで2年目の延長をさせていただきました。その後、日本人として国連組織で働くキャリアを長い目で見た場合、他の開発援助機関での経験や、ビッドナーである日本政府に近い立ち位置で働く経験を一度得たほうがよいのではないかと考え、一度JICA本部での勤務を経てから、JPOとして2022年春よりUNICEFウガンダ国事務所にて勤務しています。青少年育成担当官として、学校に通っていない10代の子どものために21世紀型スキル育成事業をリードしていますが、UNVでの経験や知識が現在の仕事に生きており、貴重な経験を積ませていただいたプライマリー・コースに非常に感謝しております。

# Mid-Career Course ミッドキャリア・コース

## 平和構築・開発の現場におけるキャリア構築のためのスキル・能力の深化と実践

ミッドキャリア・コースは、平和構築・開発に関連する諸分野（法律、行政、医療、IT、調達、会計、広報、環境等を含む）で10年程度の実務経験を有する方々の更なるキャリア発展を支援するコースです。組織における立場の変化や複雑化する業務への対応等の課題に対し、求められる総合的な応用力として、国際機関における「Competencies（業務遂行能力）」である「コミュニケーション/ネゴシエーション」、「リーダーシップ/マネジメント」に焦点をあてて、ロール・プレイ演習などを通じた強化を目指しました。参加者の方々には、講師陣のフィードバックをもとに更なる個人のパフォーマンスの向上を図り、またチームワークを通じたネットワーク構築を進めていただく機会を提供しました。今年度は2023年1月5日から1月11日の7日間にわたり、研修を東京で実施しました。



### 今年度参加者からのメッセージ



ニコラス・ハーキュリース | 国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS), 南スーダン, シニア・リエゾン・オフィサー

2002年にベオグラードにて国連でのキャリアをスタートさせて以来、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、中東、オセアニアで、開発、人道、平和維持、政治ミッションに携わってきました。私の成功の多くは、素晴らしい洞察力と才能を持つ現地職員（ナショナルスタッフ）の同僚に耳を傾け、彼らを巻き込むことによって得られました。現地の事情や文化、状況を理解し、現地職員との間に信頼関係を築くことができました。私は、これこそが成功への鍵となる組み合わせであり、国連の最高の姿を見るための近道だと思います。広島平和構築人材育成センター（HPC）のミッドキャリア・コースは、この理解を促進するものです。このコースでは、一歩下がって考え、自分のリーダーシップやコミュニケーション能力を検証し、経験豊富で優れた同僚たちが実際に直面した経験から学び、彼らがそれをどのように乗り越えたのか、あるいは乗り越えなかったのかを聞き、彼らが蓄積した知恵から恩恵を受けることができます。失敗談を語る他の参加者の率直さに、私は深く心を打たれました。20名という少人数で、心を開き、自分達の弱さを見せ、直面しているリーダーシップの課題を共有することで、信頼関係が生まれ、より深く、豊かな交流が生まれました。その結果、しばしば文化の違いによっておこる多くの課題の核心に近づくことができました。国連は193の加盟国から構成されているため、それぞれの異なる立場から始まるのは当然です。しかし、このコースは、国際公務員として、国連憲章が示すように、世界の人々に奉仕するために、どのように異なる立場を乗り越えていくかを考える機会を与えてくれました。この実践的なコースのエネルギー、熱意、そして古代ギリシャ哲学の洞察に基づく知的基盤の多くは、HPC代表の篠田英朗氏によるものです。篠田氏は、真のリーダーシップの基礎となる、ハンドブックには載っていないソフトスキルを開発するために、自己省察を促し、実践的な演習を指導する専門家のファシリテーターチームを作りました。

リーダーシップを、望ましい結果を得るために人々に影響を与える技術であると定義するならば、日本の特徴を通して豊かになったこのコースは、私たちがモラルジレンマや不確実性に満ちたキャリアパスを歩みながら、絶えず曖昧さを抱えながら、世界で最も厄介で難解な問題の解決を目指すためのツールを、あなたの糧として増やしてくれることでしょう。古代ローマ人は、とんでもなく不可能な仕事を表現するために、次のような表現を持っていました。「ナイル川の源流を見つける方が簡単だ。」少なくとも、私たち現代人には、このような困難な課題に直面したときの指針として、広島平和構築人材育成センターを持っています。



相馬 摩耶 | 国連常駐調整官事務所, モザンビーク, 「スポットライト・イニシアティブ」プログラムコーディネーター

私は、UNICEFブラジル事務所でJPOとして国連のキャリアをスタートし、現在は、モザンビーク国連常駐調整官事務所所属しジェンダー平等・リプロダクティブヘルスライツ実現に向けたプロジェクトを管理しています。これまでにアメリカのNGO、在外大使館に勤務し、緊急支援・復興・開発におけるプログラムを担当してきました。今後さらに国際開発分野におけるキャリアを進展させたいと考えており、HPCのミッドキャリアコースを受講しました。結果として、私が日々の業務で直面する課題を解くヒントと自信、また自身の強みや弱み、さらに自分が今後どのように本分野で活躍したいのかを振り返る機会を与えてもらった7日間でした。

このコースは、コミュニケーションやリーダーシップ理論と経験豊かな講師・ファシリテーター自らの経験を基に、中堅・中間管理職の専門家がキャリアアップに必要としているスキルが学べます。しかし、それ以上に素晴らしいと感じたのは、ファシリテーターとコースに参加した同志たちのノウハウ以上に、国際協力に従事する私たちが忘れがちである自らの心身の健康管理の重要性や、自分にとってのキャリア目標と人生の成功について再考させてくれる質問を投げかけてくれることでした。今後、国際開発協力・平和構築分野でのキャリアを模索している方、更なるキャリアアップを目指しての方に本コースの参加をお勧めしたいです。そして、最後になりましたが、コース全体を熱意をもって素晴らしいとめてくださったディレクターとHPC事務局の皆様にお礼を申し上げます。



丸崎 玲 | 国連オペレーション支援局 (ニューヨーク) パートナーシップ計画官

私は現在、ニューヨークの国連オペレーション支援局 (DOS) において、工兵・医療・情報通信・遠隔医療分野におけるPKOの能力構築事業である「三角パートナーシップ・プログラム (TPP)」の政策・渉外を担当しています。前職の防衛省では、日本の安全保障政策、特に日米同盟や地域情勢分析を担当してきました。国連・防衛省での自分のこれまでのキャリアを振り返り、将来のことを考える中で、今後間違いなく重要になると感じたのがリーダーシップ及びコミュニケーション能力でした。HPCのミッドキャリア・コースは、自分がスキルアップしたいと考えていたこれらのテーマについて、これ以上ない質の高い学びを提供してくれました。平和構築・開発の現場における経験豊富な講師の方々による講義・アドバイス、様々な場面を模したロール・プレイ演習、多様なバックグラウンドを持つ魅力的な参加者達との研修内外での議論・交流、どの場面を振り返ってみても非常に濃密で価値のある七日間でした。研修終了後も講師の方々や参加者達とやり取りを続けており、絆を改めて実感し、本当に素晴らしい研修だったとの思いを強めています。同じ志を持つ方々のミッドキャリア・コースへの参加を強くお勧めします。

これからも引き続き、ステップ・ジョブズの「コネクティング・ザ・ドット」の精神で自己研鑽に励み、アリストテレスの「パソス（情熱）、エトス（信頼）、ロゴス（論理）」のバランスが取れたリーダーシップを目指しながら、平和維持・平和構築分野での国際貢献をしっかりと担って行く所存です。最後になりましたが、篠田英朗先生はじめ、HPCの皆様、講師の方々に、心より感謝を申し上げます。

## 令和4(2022)年度ミッドキャリア・コース参加者出身機関

UNAMI (国連イラク支援団) / MINUSMA (国連マリ多面的統合安定化ミッション) / OHCHR (国連人権高等弁務官事務所) / UN Women (国連女性機関) / UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) / UNDP (国際連合開発計画) / UNDOCS (国連オペレーション支援局) / UNSOM (国連ソマリア支援ミッション) / UNODC (国連薬物犯罪事務所) / UNRCO (国連常駐調整官事務所) / UNDP (国連政治・平和構築局) / UNV (国連ボランティア計画) / WHO (世界保健機関) / 国際平和協力センター (防衛省) / ICRC (国際赤十字委員会)

## 過去7年間のミッドキャリア・コース参加者出身機関 (2015年~2021年度)

DPKO (国連平和維持活動局) / DPI (国連広報局) / UNRCO (国連常駐調整官事務所) / IOM (国際移住機関) / UNICEF (国連児童基金) / WFP (国連世界食糧計画) / UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) / FAO (国連食糧農業機関) / UN-Habitat (国連人間居住計画) / ILO (国際労働機関) / UNOPS (国際連合プロジェクトサービス機関) / UNDP (国連開発計画) / UNFCCC (気候変動枠組条約事務局) / UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) / WHO (世界保健機関) / UNITAR (国際連合訓練調査研究所) / UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) / UNSOM (国連ソマリア支援ミッション) / MINUSMA (国連マリ多面的統合安定化ミッション) / UNOCA (国連中央アフリカ地域事務所) / UNFICYP (国連キプロス平和維持軍) / UNOWAS (国連西アフリカ・サヘル事務所) / OSES (国連事務総長特別代表 [シリア] 事務所) / KAIPTC (コフィ・アナン国際平和維持訓練センター) / INTERPOL (国際刑事警察機構) / 日本アセアンセンター / 世界銀行 / メコン川委員会 / OSCE (欧州安全保障協力機構) / UNIDO (国連工業開発機関) / 国連日本政府代表部 / MSF (国境なき医師団) / ADB (アジア開発銀行) / ICC (国際刑事裁判所) / 外務省 / 防衛省 / 内閣府 / 自衛隊 / JICA (国際協力機構) / NGO / 民間企業 / 大学院

※ 機関名称はコース参加当時の名称

## 令和4(2022)年度ミッドキャリア・コース:カリキュラム・講師紹介

### リーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシー (業務遂行能力) の概論 国際機関におけるリーダーシップとコミュニケーションの応用



#### 1ST STAGE TRAINING

リーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシー (業務遂行能力) の概論

- DAY 01 リーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシーについての概要
- DAY 02 コミュニケーションスキルの必須ポイント
- DAY 03 コミュニケーションスキルの適用

#### 2ND STAGE TRAINING

国際機関におけるリーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシー

- DAY 04 国連でのリーダーシップの課題の共有
- DAY 05 国連でのリーダーシップの課題への対処
- DAY 06 リーダーシップコンピテンシーの強化
- DAY 07 リーダーシップとコミュニケーションの総合的復習

#### >> 実地講師

- 篠田 英朗  
HPC 代表理事 / 東京外国語大学教授
- 上杉 勇司  
HPC コースメンター / 早稲田大学教授
- 玉内 みちる  
HPC シニアアドバイザー (キャリア構築支援) / 株式会社ロータス・インサイト・グローバル・シンガポール (人事コンサル会社) 代表取締役
- 忍足 謙朗  
元国連食糧計画 (WFP) アジア地域局長 / 上智大学・早稲田大学客員教授 / 難民を助ける会 (AAR Japan) 常任理事 / 国連食糧計画 (WFP) 協会理事
- シッダルタ・チャタジー  
中国国連常駐調整官
- ウマル・バ  
元マリ多面的統合安定化ミッションガオ地域事務所長
- 長谷川 祐弘  
日本国連平和構築協会理事 / 元国連事務総長特別代表 (東ティモール担当)

#### >> オンライン講師

- ロブ・ブレナン  
コミュニケーションマネジメントとリーダーシップに関する研究機関 (ICML) シニアファシリテーター
- アミール・ハク  
 Bangladesh Rural Reconstruction Committee (BRAC) グローバルボード係長 / 元国連活動支援担当事務次長 (USG for Field Support) / 元東ティモール担当国連事務総長特別代表 (SRSG) 兼国連東ティモール統合ミッション (UNMIT) 代表
- 鈴木 彩果  
国連本部 (ニューヨーク) 国連事務総長事務所、戦略計画とモニタリングユニットディレクター

# 世界中にいる修了生に届くキャリア構築支援

## 採用のプロセスと仕組みを理解し、戦略的に応募の準備をするコツを知る

修了生のキャリア構築を継続的に支援するため、研修修了後に活用いただける様々なサポートを用意しています。また、より良いキャリア構築支援を行うため、毎年、その改良を重ねています。



### キャリア構築カウンセリング

プライマリー・コース研修員・修了生、及び他のコースの参加者を対象に玉内みちるシニア・アドバイザーによるカウンセリングを継続的に実施。受講者はこれまでの経験・専門性を振り返りつつ、自身のさらなるキャリアの発展に役立つアドバイスを受けています。



玉内 みちる | HPCシニア・アドバイザー(キャリア構築支援)

ポスト・コロナの時代における平和構築と国際開発・協力のキャリアは、大きな転換期を迎えています。世界規模で、環境、社会、政治、国際関係の仕組みに関わる「在り方」が根本的に再編成されていく中、HPCの実践的なグローバル人材育成プログラムの重要性がこれまでにないほど求められていると思います。なぜなら、パンデミック後に必要とされるグローバル人材のスキルセットはかなり違ったものになりつつあるからです。例えば、確固な専門知識はもとより、従来大切だとされてきた「リーダーシップ力、コミュニケーション力、そして調整力」などに加えて、データリテラシー(データの読解力と運用の能力)や、想定外のシナリオにも立ち向かえるフレキシビリティやイノベーション力もキャリア構築の不可欠な要素となってきました。

そのため、これからますます、グローバル人材としての即戦力感を備えられるトレーニングで、さらに自分自身の能力を磨いていくことが大切となってきています。HPCでは、長年培った国連・国際機関との豊富なネットワークによって、コロナ危機後の国連・国際機関職員に求められる新しいスキル、能力やコンピテンシーを、一足先に見据えることができ、多角的に皆様が現場で活躍できるような貴重な学びの場を提供し続けています。未だかつてない、この大変革の時代に、国際的なキャリアを目指す皆様にとって、このHPCのプログラムは、かけがえのない体験となることでしょう。

## 修了生専用Webサイト

「国際機関等において当該分野のポストを獲得し、更には上位のポストに就いていくこと」を目指す修了生のキャリア構築を支援するため、プライマリー・コース日本人修了生専用のウェブサイトページを2022年度も運用し、キャリア構築支援の拡充を図るための事業として、以下6つのコンテンツを提供しました。



### 01 | キャリア構築支援・オンラインサロン

世界中に散らばる修了生を対象に個別的なテーマを設定し、ゲストを招いて付加的な専門知識の付与、国連機関などの人事動向に関する情報共有、修了生間のネットワークの拡充などを図っています。

### 02 | Online Seminar (オンラインセミナー)

これまでに開催された国連機関でのキャリア構築やメンタルヘルスに関するオンラインセミナーの動画や、修了生講師の方々など、本事業の講師へのインタビュー動画を公開しています。

### 03 | ライフイベントの費用補填

HPC独自のイニシアチブとして、ライフイベントに関する費用補助を行っています。

### 04 | List of Mentors・現職一覧

本事業にご貢献をいただいている講師に許可を取り、プロフィール・現職肩書・駐在機関の一覧を掲載しています。修了生が講師層にキャリア構築に関する具体的な相談等を、HPCを介して開始できる機会を提供しています。また、修了生の相互交流の機会を充実させるため、許可をいただいた修了生の現職一覧を掲載し、相互に連絡を取り合えるように配慮し、相互ネットワーク構築の機会を促進しています。

### 05 | リモートワーク/オンライン研修

本事業のプライマリー・コース修了生及びミッドキャリア・コース参加者の特典として、豊富な経験に裏打ちされた講師陣による国連でのリモートワークに関するアドバイスや、POTI (Peace Operations Training Institute) Eラーニング・コースを無料で提供しています。米国を拠点に活動するNGOであるPOTIとの連携の下、POTIが提供する29の平和活動に関連するEラーニング・コースを無料で受講することができます。また、各コースを受講し、最終テストにて75%以上の得点を獲得された場合、POTI代表者及び当法人代表理事の署名が入った修了証明書が発行されます。また、各コースの修了証明書に加えて、指定のコースを受講することで、POTIが発行している6分野における「POST (Peace Operating Specialized Training) Certificate」を取得することも可能です。その他、オンラインで受講できるPOTI以外の一般向け研修なども案内しています。

### 06 | Career Dock (キャリアの自己定期検診)

毎年プライマリー・コースで日本人研修員向けにOffice CLUTCHの佐藤知央講師を招いて行なっている「キャリアデザイン研修」の内容を発展拡充させ、修了生が定期的に自身のキャリアを見つめる機会を提供しています。「キャリアデザイン研修」は研修終了から時間が経っている修了生らに対し、自分のキャリアと向き合い自信へつなげることや、課題を把握してキャリア・プランの充実への意識化を図ることを目的としています。また、具体的な相談やカウンセリングを希望する修了生にはHPCを介して講師と連絡出来る機会を提供しています。

## オンラインサロン

キャリア構築支援により力を入れていくため、2021年度より「修了生のニーズに合わせた支援・情報提供を行っていくこと」を目的としたオンライン・サロンの運営を始めました。ここでは、その様子を紹介いたします。

オンラインで行うことで、対面での参加が難しい方に対しても充実した支援が行えるようになり、また、後日視聴もできるように修了生専用Webサイトにビデオを載せることで、時間に縛られず、いつでも修了生が関連情報を入手できるようにもなりました。これまでのキャリア構築支援の対象は主にプライマリー・コース修了生でしたが、ミッドキャリア・コース修了生にも参加していただき、層の厚い修了生間の貴重な情報やネットワークを共有していただく機会を提供しました。これにより更に充実度の高いキャリア構築支援を提供することができています。

### オンライン・サロン 実施記録一覧 2022年度(令和4年度)

- 第1回「修了生間の交流を目的にしたフリートーク」(2022年6月4日)
- 第2回「ウクライナ緊急人道支援オンラインシンポジウム」(2022年7月8日)
- 第3回「国連のキャリアを振り返って」(2022年8月25日)
- 第4回「上司と良好な関係を構築するためには」(2022年11月12日)
- 第5回「ティグレ紛争と国連の人道援助体制」(2022年12月10日)
- 第6回「ICC(International Criminal Court:国際刑事裁判所)への締約国の協力支援 ウクライナ情勢を受けた日本の協力の拡大に向けて」(2023年1月21日)
- 第7回「How to write effective documents in English in the UN system」(2023年3月11日)
- 第8回「UNV・JPOを経由したキャリア構築」(2023年3月25日)



第4回オンラインサロンの様子。玉内講師による、上司と良好な関係を構築するためのノウハウに関するプレゼンテーション。国連でのキャリア構築にかかわらず、他機関においても有益な情報について説明。

◀ 2022年6月から2023年3月で、計8回行いました。



## 令和4(2022)年度プライマリー・コースに講師として参加した修了生

### 各地で活躍する修了生講師とのネットワーク構築

修了生の中には国際機関の多種多様な活動の現場で、自分のチームを率いて、具体的なプロジェクト等に対し責任をもって動かしている人材もいます。非常に重要なポジションであるために、従来は、なかなか日本での研修に実地でご貢献いただくことが容易ではありませんでした。新型コロナウイルス感染症拡大が始まり、海外からの渡航がより制限されてゆく中、グローバル人材育成事業ではオンライン講義形式をより一層活用し始めました。第一線で活躍されている修了生の方々にもオンラインでご登壇いただき、講義をしていただくことで、平和構築・開発援助・人道援助に当たる多様な国際機関で活躍する方々のお話をお伺いすることができるようになり、今年度プライマリー・コース研修においても、一部の講師の方にはオンラインで講義をしていただき、多様なバックグラウンドを持つ講師の方々からより深い学びを得ることができました。修了生講師との関わりは、研修員にとっては、現場で直接の上司になるクラスの国連職員の考え方を把握できるだけでなく、自分のキャリア構築のイメージを得られる貴重な機会となっています。



以下では、今年度プライマリー・コースの研修にご参加いただいた修了生の皆さんをご紹介します。修了生の皆さんには、今年度の研修員が、本事業参加後の数年間で、どのようにキャリアを構築していくことができるのかを深く考えるために、非常に刺激的な講演をしていただきました。

### >> プライマリー・コース修了生

- **井上 悦子** (平成19年度修了生)  
国際移住機関(IOM) ウクライナ、政策・リエゾン・案件形成ユニット、プログラムオフィサー(PSEA 性的搾取・虐待からの保護)
- **大庭 真理枝** (平成19年度修了生)  
国連アビエ暫定治安部隊(UNISFA) ジェンダー担当官・官房長事務所主任
- **熊丸 耕志** (平成23年度修了生)  
国連開発計画(UNDP) 水セキュリティプロジェクトマネージャー
- **石原 朋子** (平成24年度修了生)  
国連難民高等弁務官(UNHCR) ウクライナ、法務官
- **藤村 梨紗** (平成24年度修了生)  
国連開発計画(UNDP) 国連政治・平和構築局(DPPA) 共同プログラムM&E・プログラム専門官
- **桑田 弘史** (平成25年度修了生)  
国連開発計画(UNDP) 国別支援管理チームプロジェクト調整専門官
- **舛岡 真理** (平成25年度修了生)  
国連世界食糧計画(WFP) アフガニスタンサプライチェーン担当官
- **大塚 玲奈** (平成28年度修了生)  
国連開発計画(UNDP) デジタルイノベーション専門官

### >> ミッドキャリア・コース修了生

- **舛岡 真理** (平成30年度修了生)  
国連世界食糧計画(WFP) アフガニスタンサプライチェーン担当官
- **リサ・リーフキ** (平成30年度修了生)  
国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA) 政務部上級政務担当官
- **ジェーン・コニー** (令和元年度修了生)  
国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS) 保護と移送、社会復帰セクション チームリーダー
- **マリア・ロペス・エチェバリア** (令和元年度修了生)  
国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS) 復興と帰還、社会復帰担当官
- **末藤 千翔** (令和2年度修了生)  
国境なき医師団 プロジェクトコーディネーター

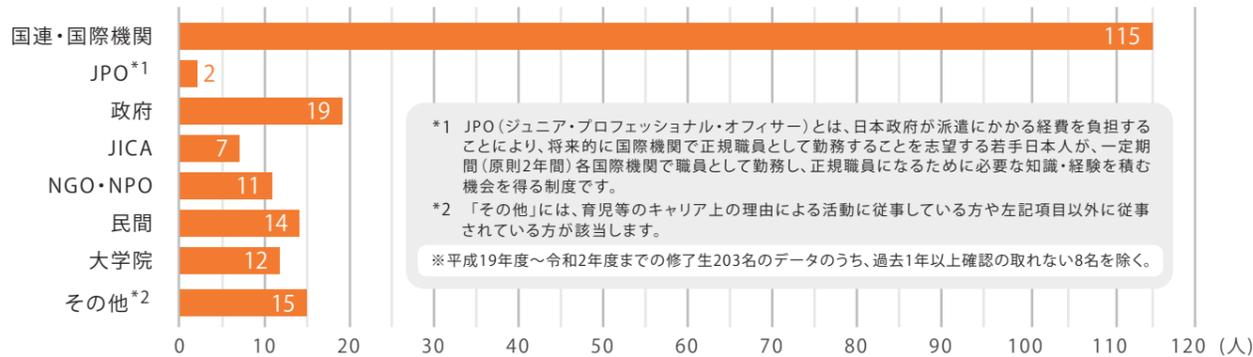


# データで見るキャリア構築

「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」は16年にわたる事業実施経験から、事業に参加された修了生が事業に参加される前と後でどのようなキャリアを歩んでこられたか、という情報を数値データ化し、事業をより良くするために活用しています。本ページでは、プライマリー・コース日本人修了生（平成19年度参加～令和3年度参加\*）についてのデータ、ミッドキャリア・コース日本人参加者（平成27年度～令和4年度参加）についてのデータの分析結果をお見せします！

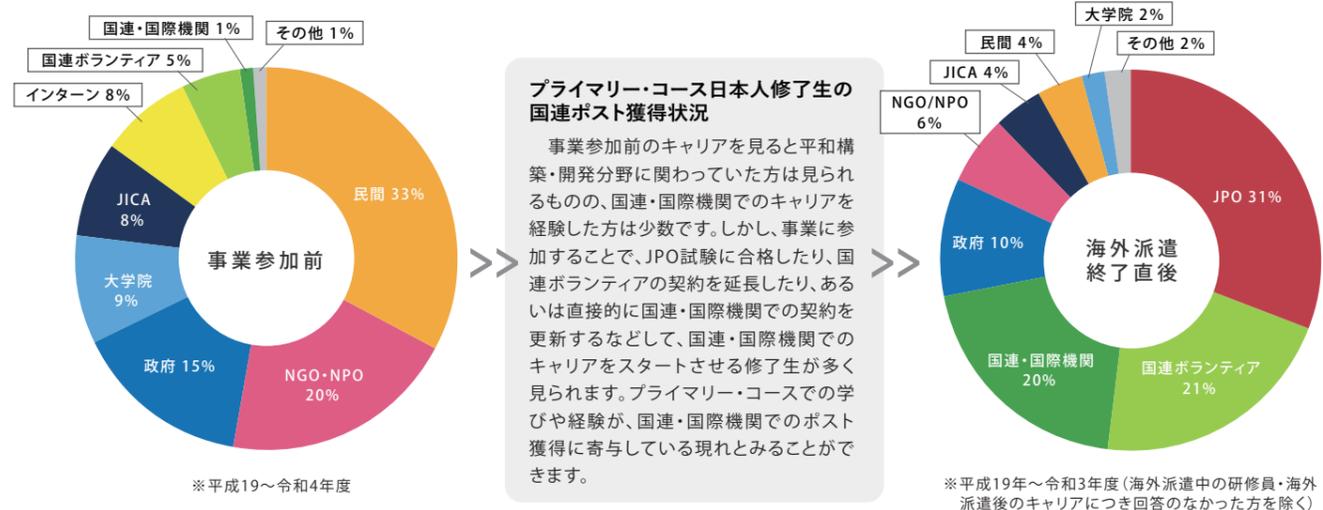
\* 令和3～4（2021～2022）年度プログラムに参加された方で、令和5年3月現在海外派遣中の方は、修了生としてのデータには含んでいません。

## プライマリー・コース日本人修了生の現在の職業（平成19年度～令和2年度）



\*1 JPO（ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー）とは、日本政府が派遣にかかる経費を負担することにより、将来的に国際機関で正規職員として勤務することを志望する若手日本人が、一定期間（原則2年間）各国際機関で職員として勤務し、正規職員になるために必要な知識・経験を積む機会を得る制度です。  
\*2 「その他」には、育児等のキャリア上の理由による活動に従事している方や左記項目以外に従事されている方が該当します。  
※平成19年度～令和2年度までの修了生203名のデータのうち、過去1年以上確認の取れない8名を除く。

## プライマリー・コース研修員・修了生の事業参加前後の職業



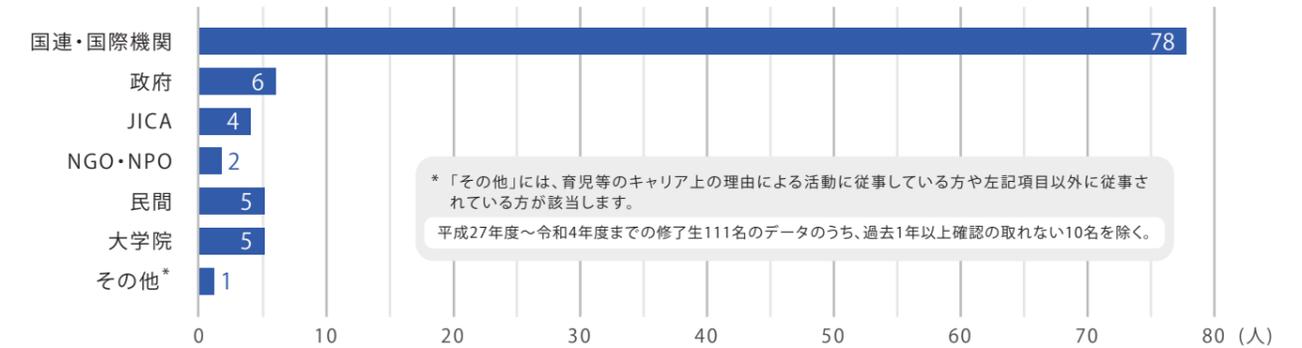
## プライマリー・コース修了生が所属する国連・国際機関（平成19年度～令和2年度）

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) / 20名</li> <li>UNICEF (国連児童基金) / 20名</li> <li>UNDP (国連開発計画) / 9名</li> <li>IOM (国際移住機関) / 6名</li> <li>WFP (国連世界食糧計画) / 6名</li> <li>世界銀行 / 5名</li> <li>UN Women (国連女性機関) / 4名</li> <li>国際連合事務局 / 3名</li> <li>IFAD (国際農業開発基金) / 2名</li> <li>OCHA (国連人道問題調整事務所) / 2名</li> <li>OHCHR (国連人権高等弁務官事務所) / 2名</li> <li>UN-Habitat (国連人間居住計画) / 2名</li> <li>WHO (世界保健機関) / 2名</li> <li>UNV (国連ボランティア計画) / 2名</li> <li>UNODC (国連薬物犯罪事務所) / 2名</li> <li>UNFPA (国連人口基金) / 2名</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本ASEANセンター / 1名</li> <li>アジア開発銀行 / 1名</li> <li>DPO (国連平和活動局) / 1名</li> <li>EBRD (欧州復興開発銀行) / 1名</li> <li>FAO (国連食糧農業機関) / 1名</li> <li>ICC (国際刑事裁判所) / 1名</li> <li>ILO (国際労働機関) / 1名</li> <li>Integrated Office of the DSRSG/RC/HC/RR for Somalia (ソマリア統合事務所) / 1名</li> <li>International IDEA (民主主義・選挙支援国際研究所) / 1名</li> <li>ITER (国際熱核融合実験炉) / 1名</li> <li>Joint UNDP-DPPA Programme on Building National Capacities for Conflict Prevention (紛争予防のための国家能力の構築に関する国連開発計画 (UNDP) 政務・平和構築局 (DPPA) 共同プログラム) / 1名</li> <li>OLAC (在ジュネーブ中南米カリブ地域事務所) / 1名</li> <li>Global Fund (世界エイズ・マラリア・結核対策基金) / 1名</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>UN Office of the Special Representative of the Secretary-General on Sexual Violence in Conflict (紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表事務所) / 1名</li> <li>UNAMA (国連アフガニスタン支援ミッション) / 1名</li> <li>UNDRR (国連防災機関) / 1名</li> <li>UNISFA (国際連合アビエイテ暫定治安部隊) / 1名</li> <li>国連大学 / 1名</li> <li>UNMAS (国連地雷対策サービス部) / 1名</li> <li>UNMISS (国連南スーダンミッション) / 1名</li> <li>UNODA (国連軍縮部) / 1名</li> <li>UNOPS (国連プロジェクト・サービス機関) / 1名</li> <li>UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) / 1名</li> <li>UNSOM (国連ソマリア支援ミッション) / 1名</li> <li>UNU-IAS (国連大学サステナビリティ高等研究所) / 1名</li> <li>UNVMC (国連コロンビア検証団) / 1名</li> </ul> |
|---|---|---|
- ※ JPO派遣・UNV契約延長含む(令和5年3月現在)

## プライマリー・コース日本人修了生のキャリアパス

ミッドキャリア・コース日本人参加者のキャリアパスミッドキャリア・コースの参加者の大半はすでに国連・国際機関に勤務している方々で、それ以外の方々も平和構築・開発・人道援助の最前線を担う政府機関や援助組織に所属しています。（なお、上記の資料は日本人参加者に関する情報ですが、外国人参加者については基本的に全員が国連・国際機関のP4/P5相当のランクの職員の方々です。）研修終了後も、修了生の方々は、そのまま国連・国際機関あるいは平和構築関連組織でキャリアを進展させていらっしゃいます。

## ミッドキャリア・コース日本人修了生の現在の職業（平成19年度～令和4年度）



\* 「その他」には、育児等のキャリア上の理由による活動に従事している方や左記項目以外に従事されている方が該当します。  
平成27年度～令和4年度までの修了生111名のデータのうち、過去1年以上確認の取れない10名を除く。

## ミッドキャリア・コース修了生が所属する国連・国際機関（平成27年度～令和4年度）

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>UNDP (国連開発計画) / 10名</li> <li>IOM (国際移住機関) / 9名</li> <li>WFP (国連世界食糧計画) / 6名</li> <li>UNICEF (国連児童基金) / 4名</li> <li>UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) / 4名</li> <li>UNRCO (国連常駐調整官事務所) / 3名</li> <li>WHO (世界保健機関) / 3名</li> <li>UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) / 2名</li> <li>OHCHR (国連人権高等弁務官事務所) / 2名</li> <li>FAO (国連食糧農業機関) / 2名</li> <li>UN-Habitat (国連人間居住計画) / 2名</li> <li>UNODC (国連薬物犯罪事務所) / 2名</li> <li>UNV (国連ボランティア計画) / 2名</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>UN Women (国連女性機関) / 2名</li> <li>世界銀行 / 2名</li> <li>UNOCA (国連中央アフリカ地域事務所) / 1名</li> <li>UNIFIL (国連レバノン暫定軍) / 1名</li> <li>国際連合事務局 / 1名</li> <li>国連グローバル・コミュニケーション局、国際連合事務局 / 1名</li> <li>OSAA (国連アフリカ特別顧問室) / 1名</li> <li>UNVMC (国連コロンビア検証団) / 1名</li> <li>UNITAMS (国連ソマリア支援ミッション) / 1名</li> <li>UNOPS (国連プロジェクト・サービス機関) / 1名</li> <li>UNFCCC (気候変動に関する国連枠組み条約事務所) / 1名</li> <li>ITER (国際熱核融合実験炉) / 1名</li> <li>UNSOS (国連ソマリア支援事務所) / 1名</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>UNITAR (国連訓練調査研究所) / 1名</li> <li>IMF (国際通貨基金) / 1名</li> <li>UNFPA (国連人口基金) / 1名</li> <li>日本ASEANセンター / 1名</li> <li>DPO (国連平和活動局) / 1名</li> <li>ICC (国際刑事裁判所) / 1名</li> <li>アジア開発銀行 / 1名</li> <li>UNIDO (国連工業開発機関) / 1名</li> <li>ILO-ITC (国際労働機関・国際トレーニングセンター) / 1名</li> <li>国連オペレーション支援局、国際連合事務局 / 1名</li> <li>UNSONM (国連ソマリア支援ミッション) / 1名</li> <li>国際赤十字委員会 / 1名</li> </ul> |
|---|--|---|

## ミッドキャリア・コース日本人参加者のキャリアパス

ミッドキャリア・コースの参加者の大半はすでに国連・国際機関に勤務している方々で、それ以外の方々も平和構築・開発・人道援助の最前線を担う政府機関や援助組織に所属しています。（なお、上記の資料は日本人参加者に関する情報ですが、外国人参加者については基本的に全員が国連・国際機関のP4/P5相当のランクの職員の方々です。）研修終了後も、修了生の方々は、そのまま国連・国際機関あるいは平和構築関連組織でキャリアを進展させていらっしゃいます。

## プライマリー・コース/ミッドキャリア・コース参加後のキャリアパスの特徴を匿名で紹介します。

### プライマリー・コース日本人修了生編

応募直前の所属先について、2022年3月時点で国際機関に勤務する1-14期生の修了生（105名）のうち、最も多いカテゴリーは民間企業出身者で26名、次いでNGOが24名、政府機関が21名、大学・大学院は18名、国際機関15名、その他が1名となっています。研修終了後の継続した国際機関での就職者の割合は、大学・大学院（66%）、民間企業（54%）、NGO・NPO（49%）、国際機関（45%）、政府機関（38%）、その他（33%）です。国際機関で継続的にキャリアを構築していくには大学・大学院で専門性を磨くことは重要であるということ、加えて、民間企業からのキャリアチェンジとしての国際機関での就職も他NGO・NPOや政府機関などからの挑戦と大差なく可能であるということが分かります。

#### 事例01 | 民間企業での関連業務が国際機関での勤務に有効に働いた例

民間企業での関連業務が国際機関での勤務に有効に働いた例プライマリー・コースへ参加する以前5年間は、物流会社にて物流及びロジスティクスの職務経験をつみ、WFPミャンマー事務所でのLogistics Officerとしての1年間の海外派遣後、正規UNボランティアとして契約を延長、JPOとしてもWFPローマ本部及びナイジェリアにてロジスティクスの職務経験を活かして勤務され、現在もWFPで活躍。

#### 事例02 | 博士号を有する修了生

博士号を有する修了生国際刑事司法における被害者救済に関する研究を行い、博士号を修得後、UNHCRルワンダ事務所にて準保護官として1年間の海外派遣を行い、正規UNVとしての契約を延長、その後JPOとしてICC（国際刑事裁判所）にて勤務し、現在もICCでのキャリアを積んでいる。

### ミッドキャリア・コース日本人修了生編

近年のミッドキャリア・コースへは、プライマリー・コース修了生の参加が多くなってきています。今年度は2名のプライマリー・コース修了生が、ミッドキャリア・コースに参加しました。ミッドキャリア・コース日本人修了生のキャリアパスの傾向としては、研修に参加することでキャリアアップをされる方もいれば、職位ランクは変わらずとも継続して国連・国際機関での勤務をされている方が多くいらっしゃいます。競争率の高い環境で自身のキャリアを進展させていらっしゃる修了生の方々の、今後益々のご活躍が期待されます。

#### 事例01

平成27年度コース参加当時P4ランクでPolitical Affairs Officer（政務官）として国連PKO局で勤務され、その後、外務省・日本政府国連代表部の一等書記官として勤務したのち、現在はUNOCA（国連中央アフリカ地域事務所、在ガボン共和国）でPolitical Affairs Officer（P4）として中部アフリカ地域11カ国を担当。

#### 事例02

平成28年度コース参加当時、UNRCO（国連常駐調整官事務所、ジンバブエ共和国）の所長（P4）として勤務。その後は、東ティモールのSenior Development Coordination Officer（Strategic Planner and RCO Team Leader）（P4）のポストを務めたのち、現在は東ティモールのUNRCOにてHead of Office（P5）として活躍。

# 平和構築人材育成事業16年の歩み

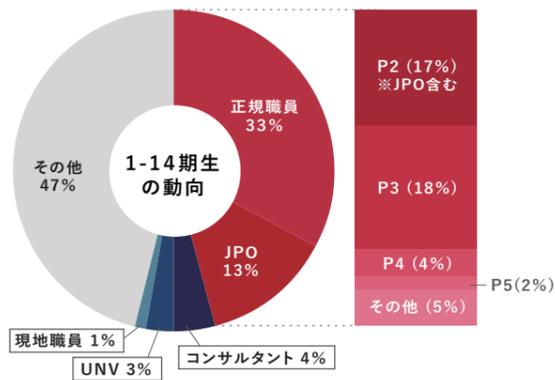
## 平和構築人材育成事業は16年目となりました

「平和構築・開発のためのグローバル人材育成事業」は、2007年に立ち上げられた「平和構築のための人材育成パイロット事業」から数えて16年目の平和構築・開発の文民専門家を育成する「人材育成事業」になります。この16年の間にたくさんの修了生が生まれ、平和構築・開発援助・人道援助などの分野で大活躍をしています。

### プライマリー・コース修了生のキャリアパス

2023年3月現在のプライマリー・コース日本人修了生の総数は204名ですが、下記では2022年3月時点の情報を基にHPCが行った調査の内容をご紹介します。当時の情報に基づきHPCが行った調査によると、「プライマリー・コース」では、日本人修了生(1期生から14期生\*)196名のうち、約半数以上(104名、約53%)が国際機関に勤務し、多方面で活躍しています。(当コースの詳しいカリキュラムは3~4ページをご参照ください。)国際機関に勤務する修了生の内訳は、正規職員(65名)、国際機関契約コンサルタント(7名)、JPO(26名)、国連ボランティア\*\*2 (UNV)(5名)、現地職員(1名)となっています。正規職員の中にはP4やP5といった高い位のポストに就き、活躍している方もいます。国際機関での今後更なる活躍が期待されています。

\*1 当時海外派遣中であった修了生を除く。  
\*2 事業後にも契約を延長した国連ボランティアのことを指します。



※このデータは2022年3月時点の調査に基づいています。

HPCが独自で行った調査によると、プライマリー・コースへの参加者は、20代~30代の方が多く、最も多いのは30代前半の参加者でした。参加者の多くの方は、海外実務研修としての国連ボランティア活動を経験したのち、①同ポストでの契約を延長、あるいは②外務省のJPO試験制度を利用したりするなどして、国際機関でのキャリア形成をされています。35歳までという年齢制限が設けられているJPO試験の対象外の方も、本事業を通して多くの方が正規ポストを獲得し国際機関でのキャリアを構築されています。

国際機関での就職には、「確かな語学力」と「専門性と経験に裏付けられたリーダーシップ」が必要とされています。「確かな語学力」とは、英語にとどまらず、他の国連公用語などを業務において使用できる言語能力を持っていること、「専門性と経験に裏付けられたリーダーシップ」とは、自らの専門分野に精通した知識と経験の両方を兼ね備え、実務経験を積み、マネジメント力やリーダーシップ力をつけていくことです。プライマリー・コース研修員の多くは、国内研修での専門的知見の獲得に加え、海外派遣を通じて多言語を用いた実務経験を積み、専門性を磨いています。また、海外派遣後、正規ポストを獲得する中で管理職に就き、リーダーシップ力を伸ばしています。

つまり、プライマリー・コースにおける一番の魅力とは、国際機関現役職員らと英語で行う国内研修で培った知識・スキルを、世界各地への海外派遣で実践することができること、「専門家コミュニティに入る基盤を身に付けられる」ことです。これらの点が糧となり、国際機関就職を目指す方にとっての第一歩となっています。各人の専門性に沿った経験を獲得することができるようHPCは外務省やUNVとも協力して工夫と研究を続けています。

### ミッドキャリア・コース修了生のキャリアパス

2015年から開始されたミッドキャリア・コースには、総勢97名(日本人修了生のみ)の方が参加されました。多くの方に、それぞれの望ましいキャリア構築に向けたサポートを得られたとのお声をいただいています。以下では、3名の方に、ミッドキャリア・コースご参加の感想と、その後のキャリアパスについてご教示いただきました。

#### 2016年度参加 Iさん

ミッドキャリア・コースに参加させていただいたのは2016年、WFP(世界食糧計画)勤務8年目にあたる年でした。ちょうど3か国目の勤務地にあたるローマ本部でP3として勤務しており、リーダーシップポジションへの応募を考えている最中でした。国連においてのリーダーシップトレーニングはP4、5以上を対象とするものが多く、一段早い段階でのトレーニングはとても重要なタイミングで、良い機会となりました。特に役に立ったのは、コミュニケーションのトレーニングで、リーダーシップの考え方と共に特にその後のキャリアでも生かされています。また、コースで会った他の国連機関の方々とコース終了後も引き続き情報交換をさせていただいており、日本人国連職員ネットワーク構築という意味でもとても有意義な機会となりました。

#### 2016年度参加 Mさん

私がミッドキャリア・コースに参加したのは2016年8月、駐ジンバブエ国連常駐調整官事務所(RCO)の所長に着任して半年が経った時でした。私にとっては初めての所長のポスト(P4レベル)だったので、一週間集中して、平和構築に関わるミッドキャリアの同志達と、業界に必要なリーダーシップ及びマネジメント・スキルを学べたのは、私のキャリアにおいて非常に重要な機会となりました。2019年より国連改革の一端として始まった大きな事務所の変革時には、所長として変革をリードしました。また、2020年に異動した東ティモール事務所では、コロナの影響を受け、脆弱な医療制度が問題となる中で、国連のStay and Deliverという重責を任せられました。2年強の間、国連常駐調整官の右腕として毎日24時間体制で危機管理に関わりましたが、どちらの経験においても、ミッドキャリア・コースで学んだピープルマネジメントの手法やツール、リーダーシップ・スキルを活かしてサポートを行い、周囲のスタッフから認められる結果となりました。現在は2022年4月末より、駐アゼルバイジャン国連常駐調整官事務所の所長(P5レベル)として勤務しています。アゼルバイジャンでもミッドキャリア・コースでの学びを応用しつつ、業務を遂行しています。18年間に及ぶ国連でのキャリアと振り返り、この先20年のキャリアをどの方向に操縦しようかと考える今日この頃です。

#### 2018年度参加 Tさん

2018年度に参加しました。当コースでは、プレゼンの仕方から同僚とのコミュニケーションで心掛けるべき点、リーダーシップなど、国際機関勤務において実際に有用なスキルを学ぶことができ、非常にためになりました。この研修を機に平和構築分野において新たなキャリア構築を築きたいと考え、マネジメントのポストに応募し、当時のP3からP5にジャンプアップすることができ、また、今までに経験したことのない地域でのポストも獲得できました。研修で学んだ広報やリーダーシップスキルなどは、業務において実際に使用することもあり、また国連本部からの参加者や講師から実際に聞いた本部や事務局の仕組み、PKOミッションの実例などの知識もキャリア形成において非常に役立っています。

「平和構築」とは、紛争により破壊された社会を再建し、二度と紛争が起こらない、「平和」を作る活動です。「平和構築」には、法律、政治、経済、警察などの、さまざまな分野での活動が必要になります。そのため、多様な分野の能力を持った人材が必要とされます。そこで、「人材育成」に主眼を置き、専門家を育成するため、外務省により創設されたのが、「平和構築人材育成事業」です。

HPCは、日本が経験した復興の歴史をふまえながら、平和構築人材育成事業を運営しています。平和構築の専門家を、奇跡の戦後復興を遂げた、広島から送り出すことは、とても象徴的な意味を持ちます。日本から飛び立つ、真の平和構築の専門家が、今後世界の平和構築に大きく貢献していくことが期待されています。

2007(平成19年)から開始されたプライマリー・コースは今年で16年目を迎えました。1-14期の日本人修了生の総数は203名となり、105名(約52%)が、何らかの形(正規職員、コンサルタント、JPO、国連ボランティア(UNV)(海外派遣終了後の契約延長)、現地職員等)で国際機関に勤務しています。

2015年から開始されたミッドキャリア・コースへの日本人参加者総数は97名となり、本事業を通して得た知識やスキルを用い、多様な職務内容と職位で、世界各地で活躍されています。

本ページでは、そんな平和構築人材育成事業の従来の歩みを振り返り、その魅力を探っていききたいと思います!



### 両コース参加者の対談

プライマリー・コース修了生の方の中には、研修終了後に国際機関でのキャリアを積み、ミッドキャリア・コースへも参加した方がいます。2名へのインタビューを通して、プライマリー・コースとミッドキャリア・コースのそれぞれが、キャリア構築にどのような影響を与えたのかを探っていきます。

#### 太 清伸さん | ■平成26年度 プライマリー・コース参加 ■令和2年度 ミッドキャリア・コース参加

- Q** プライマリー・コース、ミッドキャリア・コースの両方に参加したきっかけを教えてください。
- A** 大学院在学時より、法の支配に関連する国際機関での就職を目標とし、いくつかのインターンを経験しました。博士号取得後、国連等で必須となる実務経験を積む場を探していたところ、国連ボランティアとして1年間の経験が貯まるプライマリー・コースに魅力を感じ、応募しました。その後、幸運にも、国際機関での勤務が続く中、管理能力を高め、次のキャリアにつなげたいという思いから、ミッドキャリア・コースに参加しました。

- Q** 研修終了後のキャリアパスを教えてください。
- A** 2015年からプライマリー・コースの研修の一環として派遣されていた国連難民高等弁務官事務所ルワンダ・キガリ事務所での契約を1年延長し、難民保護官補として都市部在住の難民への対応および調査分析業務に携わりました。その後、JPO試験に合格し、2017年に国際刑事裁判所書記局対外活動局にて、分析官補として勤務を開始し、現在も同部署で政治・治安に関する情報等の分析業務に従事しています。短期契約を経て、2020年に正規職員(任期付雇用契約)として採用をされました。

- Q** それぞれのコースの魅力について教えてください。
- A** プライマリー・コースは、国際機関へのキャリアの最初の足掛かりとして、日本人が活用できる数少ない有用なプログラムだと思います。実際、修了生の多くが、UNV派遣を出発点として、更なるキャリア発展を成功させています。ミッドキャリア・コースは、今後、管理職を目指す上で有用となる知識・視点を体系立てた形で習得できるので、大きな学びになりました。両コースに共通して最も魅力的なものと言えるのは、キャリアの異なる段階で、同期となる研修生の友人が、かつ、現役の国際機関職員を含む経験豊富な講師から直接フィードバックを得られる点にあると思います。こうした人のつながりによって、情報共有という側面だけでなく、絶えず触発をうけることで、現在に至るまで良い影響を受けてきました。また、その中で自分の強み・弱みを再認識しながら、国際機関のキャリアの中でどのように自分を表現していくのかを整理するいい機会になりました。

#### 竜野 葉子さん | ■平成20年度 プライマリー・コース参加 ■平成29年度 ミッドキャリア・コース参加

- Q** プライマリー・コース、ミッドキャリア・コースの両方に参加したきっかけを教えてください。
- A** 修士号の為の留学が終わるにあたり、実務経験を積めるようなチャンスを探していたところ、クラスメイトからプライマリー・コースのことを教わりました。修士号取得の為、当時フィリピンにあるAsia Development Bankでインターンをしていたのですが、プライマリー・コースに参加するため、事情を当時の上司と大学に相談してインターン期間を短縮して日本に帰国しました。その9年後、WHOヨーロッパ事務局の購買担当官として数人のチームメンバーを率いていた時にうまくいかず、悩んでいたところミッドキャリアコースをみつけ、当コースがコミュニケーション能力や交渉力、リーダーシップスキルの向上にフォーカスしていると知り、これだと思って再度この事業に応募しました。

- Q** 研修終了後のキャリアパスを教えてください。
- A** プライマリーコース終了後、JPO試験に合格し、WFP本部にて購買担当官として勤務しました。3年間、WFPで働いたのち、WHOの公募でヨーロッパ事務局のポストに合格し、今に至るまで勤務しています。
- Q** それぞれのコースの魅力について教えてください。
- A** プライマリーコースでは、志を同じくする同期の研修生の方々と知り合うことが出来、10年経った今でも連絡を取り合っています。キャリアについて悩むことが出たとき、相談する友達が出来たことがなによりの魅力だと思います。ミッドキャリアコースでは、経験豊富な国連職員の方から、それぞれの事例について詳しいアドバイス頂いたことがとても勉強になりました。

沢山の方々に支えられ、平和構築人材育成事業は発展し続けています。これまでの事業運営で得た知見・ネットワークを、今後の研修運営に活かし、より充実した「人材育成事業」の実施を目指します。修了生の方々が世界各地で活躍してくれることを期待しています!

# Be a peacebuilder!

# 事業が目指すキャリア構築

「平和構築・開発のためのグローバル人材育成事業」は、2007年に立ち上げられた「平和構築のための人材育成パイロット事業」から数えて16年目の人材育成事業となります。この間にたくさんの修了生が生まれ、平和構築・開発援助・人道援助などの分野で大活躍されています。数多くの先輩方とのネットワークや、先輩方のキャリアの歩みの中から一つでも多くの気づきを見出し、それが大切になると考えています。こうした考えから、今年度も「プライマリー・コース」では、数多くの修了生の方々に研修に講師としてご貢献いただき、さまざまな洞察を披露していただきました。ここではその一端として、二人の修了生講師に行ったインタビューについて紹介します。



## 熊丸 耕志

現在、マーシャル諸島の国連開発計画 (UNDP) にてGCF資金による気候変動に強靱な水資源開発プロジェクト「ACWA」のマネージャーを務める。平成23 (2011) 年度事業修了生。過去12年間、国連児童基金 (UNICEF)、国際移住機関 (IOM) でソマリアや南スーダンといった脆弱・紛争の影響下にある地域含め、サブサハラアフリカで水衛生 (WASH) プログラムを通じた平和構築・人道支援・開発に従事した。環境省、UNICEFジュネーブ・東京で、アジア太平洋地域の気候変動適応の主流化や民間連携・イノベーションを通じた次世代のWASHプログラムに向けて尽力した。プライマリー・コースの一環で国連ボランティア (UNV) としてケニアにあるIOMソマリア事務所に水衛生専門官として派遣された。2011年に水資源工学の博士号 (Ph.D.) を取得。

**Q. 開発・平和構築・人道支援分野でのキャリア構築を目指されたのはどのような理由がありますか。国連で働くことになった経緯、働くこと決意されたきっかけなども伺えますか。**

元々はずっとスポーツをやっていた、学生時代はラグビーで福岡県や九州の代表メンバーとして選出いただき、海外のチームとも試合をする機会があったので、世界に挑むことの楽しさを感じて、そこから世界を舞台に仕事することに漠然とした興味を抱いてました。また、国際協力の仕事について学校に講演に来て下さった方による途上国の厳しい環境で生きる方々の現状についてのお話が胸を打ったことも一つのきっかけだと思います。もっと原体験に近い話をすると、イギリスにPh.D. の研究生として留学をしていた時に、UNICEFと国際NGOsと、アフリカの「僻地給水」に関する共同研究をする機会をいただいたんですけど、ザンビアの僻地で出会った暖かく優しい人たち、特に小さな子ども達が、汚い水が原因で下痢になり、基本的な医療サービスが受けられないことで当たり前のように死んでいく様に衝撃を受けました。お葬式に参加するのは日常茶飯事で、いつも擦り切れたボロボロの洋服を身に纏って元気に走り回っていた子ども達が、本当に小さな小さなキレイな棺に納められているのを見ると、この状況はおかしい、水が負の連鎖を引き起こすのを止め、一生懸命に生きようとしている彼女ら彼らには生きてほしいとシンプルに思ったことがより強い動機の源になっています。



**Q. いつ頃からご専門を「水」にしよう決められて、それはなぜ「水」だったのですか。**

元々自然や環境に興味があって、学部の専攻は「限られた水資源としての水」で、資源としての地下水をどう管理し守っていくのか、地下ダムや地下水人工涵養といった分野を研究していました。一緒に研究していたガーナからの留学生と毎日話をする中で、資源として水を大切に扱うことと合わせて、清潔な飲み水にアクセスできず亡くなる人々が世界にまだ多くいることに改めて気付かさ

れ、徐々に興味のシフトが、「自然と人、人に近い水」に変わっていきました。専門分野を水にしたのは、一つは、自分の生活に直結している「分かりやすさ」と、もう一つは大学3年で研究室を選ぶ時に「この人についていきたい!」と思えるような恩師との出会いをしたことがきっかけですかね。地下水をご専門にされている先生で、本当に熱くバイタリティに溢れた大好きな先生です。



**Q. 国連でのキャリアの魅力的なところを教えてください。**

国連でのキャリアの魅力的なところは、色々なバックグラウンド、国籍、文化、専門性を持った人たちと交わって、脆弱な立場の方々が直面する課題や国や地域を跨いだグローバルな課題に対して仕事ができること、いろんな国に赴任して、多くの場合大きな自然に囲まれながら、その国の色々な方々の人生と交わって仕事ができることだと思っています。他には、特に「水」に直結するの魅力だと、緊急や人道支援に限らず開発の舞台においても、水衛生は生死に直結する基本的なサービスとして不可欠なもので、責任感、緊張感もありますが、人の命や生活に向き合っている現場で仕事をしていることは、本当にありがたく幸せなことだと思います。もちろん大きな組織である国連にも一長一短はあって、キャリアは一貫して国連でなければならぬとは思っていません。結果的にご縁があって、またスタイルとしてあったのが国連だから今ここにいる、という感じですかね。

**Q. 望むキャリア構築を達成していくためのコツ、アドバイスなどはありますか。**

正直、コツはありません (笑)。強いというなら、「軸がある」ことは間違いない大事なことだけれども、組織や周囲の環境を自分から変えていくことを恐れない、ということですかね。自分がプライマリーコースに入る時は、WASH (Water, Sanitation and Hygiene) でやっていくということが明確で、それ以上のことは深く考えてなかったんですけど、WASHの専門官として水衛生の問題解決にアタックしていく中で、やればやるほど自分が取り組んでいる課題はそんなにシンプルじゃないとわ

かってきました。じゃあ自分はどうしていかないと考えた時に、同じ組織にずっといても、できること/できないことがあって、他の組織にも積極的に出て行って多角的な視点から学んだり、新たな専門性を培ったりすることで、自分が持っているアセットや視野を超えて、より効果的に水衛生の問題に包括的にタックルできる方法が他にも見つかるんじゃないかと思いました。ずっと同じ組織にいることが重要なんじゃなくて、自分が解決したいと思う課題や領域に素直に向き合って、その解決に向けて必要な能力や知識を身につけることができる環境を模索したり生み出したりして、自分を高めていくことが大事なんじゃないかな、と個人的に思います。もちろん容易ではないですが、国連という組織はそういった人が渡り歩くことを受け入れる懐の深さがあるような気がします。Delivering as Oneと、国連機関同士の調整を円滑に行って支援の相乗効果を図る方向性が叫ばれて久しいですが、WASHを軸として平和構築・人道支援・開発を少しでも上手く繋ぐことができるように、異なる国連機関を渡り歩いて個人レベルでもOne UNが実現できるように挑戦しています (笑)

**Q. 国際機関での就職に際し、迷っている人がいたらどのようなアドバイスをされますか? (キャリア構築におけるアドバイスをお聞かせください)**

国際機関への就職は人生の終わりにゃないです、実際にやってみて、動いてみて、合ってなかったら、違うなと感じたら辞めたいと思います。人から聞いたことで判断するよりは、自分で踏み出してやってみて判断した方が、自分にとっても納得できると思います。あくまで国連は国際協力の一つのオプションに過ぎないです。ただ国連は、面白いと思います。こういう人じゃなきゃダメというのはなく、いろんなバックグラウンドの方が、それぞれの経歴や専門性を活かして、勝負ができるところが非常に面白い組織だと思っているので、一回是非トライしてみてください、その経験に基づいて、自分に合ったスタイルを探していくというのがいいのではないのでしょうか。



## 舩岡 真理

平成25 (2013) 年度事業修了生。高校生の頃から食料援助分野に関わることを目指し、国連WFPを志す。HPCを通してWFPミャンマー事務所へ赴任、その後JPOとしてWFPローマ本部を経て、WFPナイジェリア事務所・ラゴス支部長、緊急人道支援の上流オペレーションを担当。WFPイエメン事務所にて現金及びパウチャーによる支援を担当のち、2021年9月より現職、WFP最大の支援を行うアフガニスタン事務所にてサプライチェーンのオペレーションを担当。慶應義塾大学総合政策学部卒。London School of Economics and Political Science社会政策修士。

**Q. 国連に入りたいと思っても、望むキャリアを構築していくのは決して簡単なことではないと思います。望むキャリア構築を達成していくためのコツ、アドバイスなどはありますか。**

コツといえるかどうかかわからないのですが、私自身望むキャリア構築のために大切にしてきたことが3つあります。

**Q. 真理さんは、学生時代からWFPで働くことを志されていましたよね。WFPでのキャリアを目指されるようになった経緯、きっかけなどを教えてください。**

私は幼い頃から食いしん坊で、食べることが大好きだったので、お腹が空いていると辛いだろうなという感情は漠然といつも抱いていました。そこから、世界の食糧事情、飢餓問題や緊急支援へと関心が膨らみ、この関心に携わる方法の一つとして国連WFPに興味を持ちました。学生時代にWFP事務所へ訪問し色々教えて頂いたことや、WFPの緊急支援にはサプライチェーンの要素が不可欠と知ったことで、自分の興味をいかに仕事と専門性に結び付けていか真剣に考えるきっかけになりました。



**Q. 高校生の頃からの興味関心を、今でも持ち続けられて、勤務されているんですね。国連、あるいはWFPでのキャリアの魅力的なところを教えてください。**

国連で働くたくさんの魅力の一部として、お伝えしたことは3つあります。

1つ目は、自分の信念に沿って仕事ができることです。自分が課題だと感じていることに寄り添える、取り組める、役に立てる、自分の仕事の問題解決の一助となると信じられる。結果、情熱が色あせることなく働き続けられるところがとても魅力的だと感じています。

2つ目は、一緒に働く同僚、特にナショナルスタッフと学びあい、高めあうことができる環境です。私の今までの赴任地は紛争地が多いですが、その国に生まれた同僚が自国の状況をどう感じているのか等、彼らの視点から学ぶことが大変沢山あります。特に現在のアフガニスタンでは2021年のタリバン復権後、歴史の大きな変わり目の中で彼らがどのように変化をとらえているか、またその中でWFPがどのように活動を続けていくべきか、いつも助言をもらっています。また同時に、国際スタッフとしての自身が如何に貢献できるか常に問われる環境でも感じていますし、お互いに貢献できたと思えあえるとき大きな喜びとやりがいを感じます。

3つ目は、違うことが当たり前環境とマインドセットです。「グローバルで国際的な環境」を少し咀嚼するとういう言い方になるのですが、いつも感じているのですが、文化的背景も言葉も人種も違うことが大前提なので、同調圧力、社会的圧力などはなく、自分を偽る必要もなく、自分が自分やすい部分があると感じています。その分自分の意思をしっかりとコミュニケーションする必要はありますが、「同じこと」ではなく「違うこと」がベースにあり、違いを認め合える居心地の良さは非常に魅力的だと感じています。

1つ目は、「得意なこと」を軸にしたスキルセットの構築です。組織の中で何が今重要なスキルかということ进行分析して、可能であればできるだけその習得を目指すこと、そしてこれなら得意だと思える自分の武器をたくさん作るようにすることです。「やりたいこと」よりも、他者の目から見た「得意なこと」を分析してスキルセットの軸にするほうが、武器になりやすいと感じますし効率も良いと思います。また学生時代やキャリアの初めの頃など、自分に投資できる時間が長い期間に集中してもっとスキルの構築をやってあげればよかった、と今も強く思います。

2つ目は、分析をする習慣です。自分、相手、チーム、状況など、分析の対象は様々ですが、正しい理解の前には必ず分析が必要と感じています。キャリア構築の分脈に絞ると、前述ともリンクしますが、チームの強み弱みを分析することでどこに役に立てそうなポイントがあるかを知ることができ、自分の強み弱みや指向性を分析することで、より自分に合った分野のスキル構築がしやすくなります。同時に、自分が何を誰とどこで何をしていたら幸せか、それを叶えるためのプライオリティ及びタイムラインの設定など、仕事以外の幸福の充実を図ることも望むキャリア構築のために非常に大切に感じています。

3つ目は、戦略的に、ポジティブに、情熱的に、です。スキルの構築や経験の獲得にはやはり時間がかかりますし、うまくいかずもどかしい思いをしたこともたくさんありました。(今でももちろんあります!) そういった時、冷静に戦略的に考える姿勢を忘れず、長期的にプランをしてなんとかかなとポジティブに、そして問題意識や課題への情熱を忘れないよう努めたことが、何度も精神的に助けてくれました。

**Q. ありがとうございます。国際機関での就職に伴い、勤務地の危険性、家族のこと、子育て、結婚など様々な困難に当たるとありますが、そういったことに関して、キャリア構築をしていく上でどのように考えていくと良いでしょうか。**

皆さんにとって大変重要なトピックですよね。十人十色なので一概には言えないとは思いますが、私にとってもWFPで緊急支援の前線にいることと家族やパートナーなどプライベートの充実のバランスを図ることはいつも大きな課題です。ただ、家



族を同伴できない危険地に行く場合、そのバランスは一度には叶えられないということも明白だったので、それならば一度にはではなく順番に、とプライオリティとタイムラインを含めたプランを作るようにしています。

プランを作るときまたは見直すとき、心掛けていることが3つあります。まずは、突発的なことが起きても対応可能なようにプランに柔軟性を持たせること、そしてできるだけ準備をしておくことです。急に訪れたチャンス、自分や親の病気、パートナーの事情、など自分ではコントロールできないことが起きたとき、プランに方向転換やタイムラインの余裕があると対応がしやすくなると感じました。またその余裕を生み出すために、定期的な人間ドックの受診、異動や休職に関する知識、上司の理解を得ておく等、できるだけ準備をしておくことが肝要だと考えています。次に、人と比べず自分の幸せを軸にしたベースでプランを立てることです。何が幸せかは自分だけの物差しですし、自分を幸せにできるのは組織ではなく自分ですので、できるだけ自分のペースでキャリア構築のプランを立てるようにしています。最後に、プランを決める過程で家族やパートナーにシェアし、話し合いながら理解を得ることです。これは当たり前プロセスかもしれませんが、なぜ自身がこのようなプランを望み、将来どうしたいかということまで含めて話すことで、パートナーとのタイムラインのすり合わせが容易になったと思います。

また、国連は自分のプランに合わせて柔軟な環境を提供してくれる職場だと思います。危険地から家族同伴可能な勤務地に異動したり、休職制度を利用したり、様々な方法を模索することが可能なので、その助けを借りて困難に思えることを挑戦に変えられると感じています。自分のキャリアやライフステージに合わせて、困難を挑戦に変えて楽しむ、そんなマインドセットでいることが大事かもしれません。

**Q. 最後に、国際機関での就職に際し、メッセージをお願いします。**

国際機関での就職は挑戦的で競争の激しい側面ももちろんありますが、その努力がすべて報われて余りあると感じられるくらい、私にとっては大変魅力的で楽しい職場です。他では得難い経験をたくさん得ることができ、自分の視点を根源的に変え、広げてくれる環境だと感じていますし、それによって自分の成長も大きく促されます。様々なバックグラウンドを持つ同僚と一つの問題と一緒に取り組むプロセスは困難ももちろんですが、感動もあります。もし迷っているとしたら、是非挑戦していただきたいと思っています。一緒に働けるのを楽しみにしています!



### 講師 | 忍足 謙朗

元国連世界食糧計画(WFP)アジア地域局長/NPO法人難民を助ける会(AAR Japan) 常任理事/上智大学講師/国連世界食糧計画(WFP)日本協会理事

1956年東京都目黒区に生まれ、高校まで都内のインターナショナルスクールに通い、米国の大学に進学、School for International Training (アメリカ、バーモント州)で国際行政学を学び、修士号を取得。1989年から国連世界食糧計画(World Food Programme、以下 WFP)に勤務して、緊急食糧支援に携わる。2006年にはスーダン共和国にて、当時世界最大規模の緊急支援を指揮。77国籍からなる、3000人のスタッフを統括。2009年から2014年には、WFPアジア地域局長に就任され、タイ・バンコクをベースにアジア14カ国の支援の総責任者となる。アフガニスタンや北朝鮮などで現場に入り、WFPの現地での活動の指揮をとった。現在は、日本国内で国際協力に興味を持つ若い世代の育成に携わっている。

## ピースビルダーズ特集

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業では、国際平和構築活動に携わられた豊富なご経験を持つ方々や、現在も様々な国際機関で活躍されている方々を講師として招き、示唆に富んだ研修をしていただいております。講師の方々は、将来の平和構築実務家のために模範的な人物としての役割を果たしています。ここでは、本事業のプログラム・ディレクターである篠田英朗が、長年、本事業にて講師として活躍して下さっている忍足謙朗氏にインタビューを行った様子を紹介いたします。忍足講師は、本事業プライマリー・コースには9年間、ミッドキャリア・コースには8年間にわたり講師としてご貢献いただいております。研修員・参加者にご自身の豊富な経験に基づいた示唆を与えて下さっています。毎年、東京・広島の現地で研修にご貢献いただいております。寛大な指導で多くの修了生の背中を押して下さっています。

### 篠田英朗 × 忍足謙朗 対談

**篠田** まずは、国連でのキャリアを築かれたきっかけを教えてください。

**忍足** 僕の場合は、もともと国連に入ろうと思っていたわけではなく、たまたまそうなった、という始まりでした。アメリカで、大学院修士課程が終わるちょっと前くらいに、アメリカの日本領事館でアルバイトをしていたんですが、国連の日本政府代表部の方が領事館に立ち寄った時、「(邦人職員が少ないので)アメリカで勉強している日本人の学生をリクルートしよう」というのを、領事館の職員に話したそうなんです。そしたら、「ちょうど大学院が終わる若いのがいるから、話してみよう」ということになったわけです。国連なんて考えたこともなかったんですけど、興味はあったので、そう話したらニューヨークの国連開発計画(以下、UNDP)本部に直接インタビューによべられたんですよ。その頃は、UNDPがどんな組織かも知らなかったんですけど、「JPOとしてリビアに行かないか」とのオファーをもらいました。それが僕の国連でのキャリアの始まりでした。

**篠田** 結果的に、かなり長く国連で勤務されることになったわけですが、その経緯をお聞かせください。

**忍足** UNDPの後、UN-Habitat(国連人間居住計画、以下UN-Habitat)、その後WFPで務めることになったんですけど、国連の仕事環境が自分に合っていると思ったからです。国連の魅力的なところは、いろんな国籍の人たちと一緒に仕事をすることができるので、これがすごく大きいと僕を感じています。僕は小さい頃からインターナショナル・スクールに通っていたので、色んな文化・価値観・国籍など、異なるバックグラウンドを持っている人たちが居る環境を、むしろ心地良いと感じていました。特に後にスーダンでWFPの所長をやっていた時は、3000人、77国籍の部下がいました。そんないろんなバックグラウンドを持つ部下を率いるのは大変じゃないかとよく言われるんですけど、僕にとってはむしろそれが楽しかったので、続けてこれたんじゃないかなと思います。

**篠田** 結果的にWFPで長く勤務されることになったわけですが、特にWFPに感じた魅力というのはどんなものがあったんでしょうか。

**忍足** まず、「食料を届ける」というマントがシンプルですよね。あとは、開発みたいに長く時間をかけて結果を待つというよりも、すぐに結果が分かる緊急を要する人道支援が自分に合っていたのだと思います。僕はとても単純な人間なので(笑)。デスクワークよりも、最前線のフィールドにすることが好きでした。ものを動かす、ちょっと荒っぽい組織文化でもあるんですけど、官僚的ではなく、むしろスピード感を重視して動くWFPが好きでした。食料



援助をあれだけの大きな規模でやる組織はWFPしかないと思うので、その責任感とか、大きなオペレーションがとても魅力的でした。

**篠田** 長くWFPで活躍されましたが、「レジェンド」と呼ばれたほどの忍足さんであっても、キャリアを築く上での困難は何かありましたか。

**忍足** WFPでは次に行きたいポストに応募するのが通常の人事システムですが、僕の場合は、最初の頃からWFP側に「ケンロウ、次はここに行ってくれないか?」と話を掛けられ、「いいですよ」と飛び込んで行っていたような感じでした。あまり自分の先のキャリアを考えもせず、流れに任せていたように思います。一度だけ、自分から申し込んでローマの本部勤務に移動して「Evaluation(評価)」というポストを経験したんですけど、半年も持たないくらい馴染まなくて(笑)。誰かがやっている仕事を評価するという職務内容が自分には向いてなかったんだと思います。僕は、むしろ自分がやりたくなくなってしまふタイプなので。反対に、WFP側からのオファーで受ける仕事はどれも本当に面白かったので、WFPの方が僕のこと分かっているんじゃないか、と思うようになりました(笑)。行った先で好き勝手にやらせてもらって、WFPには「育ててもらった」感が強いんですね。

**篠田** WFPと本当に相性がよかったということですかね。国連では34年間のキャリアを積まれましたが、順風満帆なキャリア人生とはいえ、その中で「やめよう」と思ったことは一度もなかったんでしょうか。

**忍足** 仕事が嫌でやめようと思ったことは一度もありません。ただ、家族のことになると、一度辞めようかなと思ったことはありました。40歳くらいでローマに行く前に、カンボジアにいたんですけど、家族と離れていた時間が長くなったので、「こんなに離れていいのかな、息子たちに何もしてやれてない」と思い、辞めようかなと思いました。妻も子供たちも、割と僕の仕事をリスペクトしてくれていたのですが、文句も言われず、楽しんで仕事をしていたんですけど、息子たちが小学校低学年くらいの時に、親父として何もしてないなど、思うようになってたんですよ。小さい頃はナイロビで一緒に暮らしていたんですけど、小学校からは日本に住んでいて、長い期間かなり距離がある生活をしていました。

**篠田** これまで参加してくれた研修員も含め、国際機関に就職する人は皆、一度くらいは辞めることを検討する時が出てくるように思います。忍足さんは結果的に長く国連にお勤めになったわけですが、命の危険にも接するような人道支援の場で、勤務され続けた原動力・マインドセットはどのようなものだったのでしょうか。

**忍足** 長く続けた理由は、シンプルです。WFPで働くことがとても楽しかったし、自分に合っていたと思います。僕からのアドバイスとしては、この仕事は自分に向いているのかどうか、本当に楽しいのかどうか、そういうことに素直にならずにちゃいけなと思いますね。2年とか3年とかで変わる勤務地で、毎回、文化もよくわからないし、知らない顔ばかりのチームに入るワケだし、友達も初めはないし、という環境なので、これを大変と思うか、それとも冒険と思うかは個人の捉え方だと思うんですよ。冒険として考えれば、普通の人が行けないような国にいくつも行って、少なくとも飽きない。「自分にとって何が大切な価値なのか」ということは考える必要があると思います。僕にとってはやっている支援の仕事にやりがいを感じるか、一緒に頑張っている仲間たちと楽しく過ごせているか、というような当たり前の事が軸だったように思います。



**篠田** 研修員としてプライマリー・コースに入ってくる方々は30代初めくらいの人が多いわけですが、自分にとって何が重要かという自分の価値観を確立させるために、このくらいの年代で何か考えておいた方がいいことはありますか。

**忍足** 30代前半で、自分にとって何が重要か、みんなわからないのは普通だと思いますよ。ただ、30代後半くらいになって考えて欲しいのは、「人の上で立つてチームを引っ張って行くようなことが得意で、キャリアの方向としてマネジメントの方に行きたいのか、そうではないのか」ということですね。もし得意でないだったら、専門分野の中上位に上がっていくという選択もあります。ご自身のキャリアプランニングとして、その大きな2つの方向性について考えることは重要になると思います。WFP、



UNICEF、UNHCRのようにローテーション人事がシステム化されていて、どんどん勤務する国が変わっていく人たちは、「次のポストはどこにしようか」と次のポストばかり考えてしまう傾向があると思うんですけど、それだけではなく、もっと先の未来について考えておくことは大事だと思います。家庭がある人なんかは特に、目先のポストやその職位だけに捉われずに、長い目線で(10年後とか)自分のキャリアや家族のことも考えるのは大事です。では、自分がそれができてたかと振り返ると、あまり将来のことなど考えてなかったです(笑)。考えておけばよかったかな、と今は思います。



**篠田** 国連でのキャリアにおいて、一番楽しかったこと、また逆に残念だったことがあればそれも、お聞かせください。

**忍足** WFPの仕事でなんとと言っても一番嫌だったことは、危険を伴っているけれど、ずいぶん大切な仲間を亡くしたことですね。これだけは、退職しても、仲間を失くした傷は、今も消えないです。正直なところ、そんな悲劇は、自分に起こるかもしれない、とたまに考えていました。これが一番ネガティブな面です。ポジティブなところは、「人助け」というミッションはWFPの仲間みんな持っていたんで、一体感がありましたし、どんなに辛い別れがあっても、受け止めながら、いっしょに頑張って仕事場に向かいました。本当に信頼できる、今でも大切な友人といえる大勢の仲間巡りに会えました。

**篠田** HPCの研修ではリーダーシップに力を入れていただいています。リーダーシップの重要性についてお聞かせください。また、こだわり、思い入れみたいなものがあればぜひお聞かせください。

**忍足** まずリーダーシップって、役職とか権力とは関係ないもので、シニアスタッフにならないと使えないものではないです。心掛きたいものですよ。僕が大事にしているのは「フェア(公平)であること」、「勇気があること」、「仲間を大事にする思いやり」この3つで、この3つを考えれば、高校生の野球やサッカーチームでも同じですよ。友達同士の間でも、頭のどっかにリーダーシップを入れているのはすごく大事なことだと思います。僕は、かつていいなと思うリーダー、こんなリーダーにはなりたくないな

というリーダー、いろんなリーダーを見てきました。彼ら彼女らから学ぶ中で、自分がなりたいと思うリーダー像を作り上げていくことも重要ですね。

**篠田** ありがとうございます。では最後に、国際機関でのキャリア構築を目指すこの事業の修了生及び将来の研修員・参加者に向けたメッセージをお願いします。

**忍足** 一番は、まずは飛び込んでやってみろということです。僕は基本的にはフィールドが好き人間ですが、ローマ本部では政策や人事部なども経験させてもらって、試行錯誤を繰り返して来ましたが、その分考え方の幅が広がったり、新しい人的ネットワークができてきたりしました。本部の経験もとても大切です。新しい国に赴任するのも、最初は何も分からなくても、怖がりすぎずに飛び込んでみらいと思います。沢山の経験を積んでいく中で、自分の得意・不得意、向き・不向き、好き・嫌いが次第に分かってくるので、自分に素直になりながらキャリアについて考えてみる。一つ皆さんに国連のキャリアの中で考えて欲しいのは昇進についてです。P3、P4、P5(国連の職位の呼称)とかのランクが上がっていかないと、落ち込んでしまう人を随分見かけたんですけど、国連の外から見たらそんなランクは何の意味もないです。むしろ重要なのは、今やっている仕事はやりがいがあるか、面白いかなということです。経験を積んでいけば、それなりに職務の責任も上がっていきますし、それをこなす力も自然についてきます。職位のランクとかに振り回されず、本来の仕事のやりがいを感じて、仲間と仲良く仕事できれば、必ず上上がって行くチャンスが訪れます。プライマリー・コースに参加して国連職員になれた人たちは、かなり特別な仕事に選ばれたんだから、ぜひ情熱を持って続けてほしいと思います。これからこの業界に入りたいと思っている人、入るか迷っている人にはHPCのプライマリー・コースをお勧めします。僕みたいに何にも知らないで国連に飛び込んだ人からしたら、世界中で活躍している様々な講師を次々と迎えながら、有用な知識を沢山教わる、とても贅沢で、羨ましい機会だと思います。何年たって振り返っても、国連はとても楽しく面白い職場でしたし、緊急人道支援という職務もとても好きでした。勇気を出して、どんどん挑戦してみたいと思います。

